

新聞記事に見る

# 長久保赤水

30. 8. 23 ~ 25. 8. 2



長久保赤水顕彰会

# 長久保赤水の生涯 漫画に

# 偉業若い人にも伝えたい



長久保赤水の生い立ちや功績を紹介する「マンガ 長久保赤水物語」

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の生涯を描いた漫画の単行本「マンガ 長久保赤水物語」が完成した。赤水は伊能忠敬より42年早く、緯度と経度が書かれた日本地図「改正日本輿地路程全図」を制作した郷土の偉人。若い世代にもその偉業を知ってほしいとの願いが込められている。（上村菜由、写真も）

## 竹島を地図に記した高萩の地理学者



「マンガ 長久保赤水物語」をPRする顕彰会の佐川春久会長（左）と高萩市役所

赤水は同市赤浜の農家に生まれ、農業の傍ら勉学に励み、第6代水戸藩主、徳川治保の講師も務めた。1779年に主要道路や地名などが記された「改正日本輿地路程全図」を刊行し、地図の大衆化に寄与したとされる。また、この全図には竹島（島根県隠岐の島町）が記されており、江戸時代に日本が竹島の領有権を確立していたことを示す証拠の一つとされる。

単行本には、高萩市の主婦、黒沢貴子さん（51）作の「長久保赤水の生涯」と、日立市の会社員、原康隆さん（44）作の「長久保赤水の一生」の2本を収録。いずれも赤水の生い立ちや功績を描いているが、描き手の個性が生かされ、黒沢さんは「分かりやすいように図解を入れ、赤水も親しみやすくコミカルに描いた」、原さんは「極力史実に基づいて描いた。難しめだと思つので、気になったところは読者に調べてほしい」と話している。赤水に関する写真や資料、年表も掲載されている。

漫画はB6判で500円（税別）。県内の教科書取り扱い書店で販売している。顕彰会では懸賞金10万円の感想文（800字以内）も募集している。問い合わせは顕彰会事務局 ☎090・1846・6849。

# 長久保赤水を漫画に

## 江戸期の地理学者

竹島（隠岐の島町、韓国名・独島）を初めて地図に描き、「近代地理学の祖」と呼ばれる江戸時代の地理学者・長久保赤水（1717～1801年）の生涯をまとめた本「マンガ 長久保赤水物語」が完成した。出身地の茨城県の有志を中心とする顕彰会が手掛けた。担当者は「伊能忠敬より40年も早く日本地図を作った功績を知ってほしい」と願う。（陰山篤志）

## 竹島 初めて地図に描く



「マンガ 長久保赤水物語」の一場面

赤水は茨城県高萩市赤浜の農家の出身で、学才を認められ、第6代水戸藩主治保の教師役を務めた。地理学に秀で、竹島と緯度、経度を記した地図「改正日本輿地路程全図」（1779年）を作った。残した地図は明治時代までベストセラーとして活用され、戦後、日本の領土を画定する際に



功績をまとめた「マンガ 長久保赤水物語」

## 出身地・茨城の顕彰会企画

# 「功績知って」

参照された。漫画本は、顕彰会の20年以上にわたる研究成果を子どもらに伝えようと企画。農作業に励みながら学問に打ち込んだ幼少期のほか、先人が残した地図や旅人からの情報で、精密な地図を作り上げる過程を分かりやすく描いた。

横行していた赤ん坊殺しを戒めたり、死罪も恐れず禁を破って年貢制度の改善を藩主に直訴したりといった人となりを伝える逸話も盛り込んだ。全図や「改製扶桑（日本）分里図」（1768年）、生誕地などの写真も多数掲載した。

顕彰会の佐川春久会長（69）は「赤水先生の地図は長きにわたり、多くの庶民らに愛用された。全国に存在が広まってほしい」と願った。

B6判、276ページで、3千部作製。540円。購入希望者は、佐川会長または顕彰会ホームページから申し込む。問い合わせは佐川会長、電話090（1846）6849。

# 長久保赤水の功績知って

江戸時代に活躍した高萩市出身の地理学者・長久保赤水（1717～1801年）の顕彰活動を続ける「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長）は、赤水の人生や功績などをまとめた単行本「マンガ 長久保赤水物語」を発行した。日本で初めて経緯線を入れた全国地図を完成させた人物の功績を広く知ってもらおうと企画した。



長久保赤水の功績などを紹介する「マンガ 長久保赤水物語」

## 顕彰会が漫画発行 地図づくり励む姿紹介

赤水は農家の生まれながら地理学など様々な学問を修め、自らの旅の経験や他人から聞き取った情報を基に、伊能忠敬が精密な日本地図を完成させる42年前の1779年に日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を完成させた。

赤水物語は「長久保赤水の生涯」と「長久保赤水の一生」の2種類の漫画をメインに構成。「生涯」では、化け猫「月丸」を案内役に、交友関係や東北旅程を交えながら地図づくりに励む赤水の姿を紹介。「一生」では、ひたすら学問を修めながら人生を切り開いていく様子が描かれている。

巻頭、巻末には、赤水の手による地図や紀行文、年表などの資料も収められている。本の帯には、福井照・領土相が「農民出身の赤水が、どのように『赤水図』を完成させたのか。学ぶことの意味を考えさせてくれる漫画です」と推薦文を寄せている。

佐川会長は「子供や孫の世代に伝えるには漫画が一番と考えて発行した。漫画

## 記者手帳

○：高萩市出身で、歴史的に有名な伊能忠敬より前に日本地図を作った長久保赤水の功績を紹介する特別展で、福井照領土問題担当は「自分で情報を集め、日本の領土を確定したことは、国としてもっと顕彰しないといけない」と強調する。

## 赤水の功績、国顕彰を

赤水の描いた地図には竹島が描かれて、当時から日本領だったことを示す資料として国が注目する。福井氏は今回の展示をきっかけに、全国でもっと（赤水の功績を）見てもらえる方法も考えたい」と意気込んだ。（作）

○：県内生保22社と県警は二七電話詐欺防止に向け、覚書を交わした。6月末現在で被害件数は155件、被害総額約1億4800万円に及ぶ。「巧妙な手口に対応できていないこと」の表

れ」と、生命保険協会県協会の岸本正会長は危ぶむ。

県内の二七電話詐欺被害は減少傾向にあるが、さらなる被害防止へ「マンガ」を生かし、一軒一軒に情報発信する」と生保の強みを強調。営業社員が顧客訪問の際に、声掛けや啓発チラシの配布に取り組む。（宗）

○：「まだ逃げなくても大丈夫」という意識で避難が遅れる人もいる。そのためにも5分でも早い予測を立てたい」と、人工知能（AI）を活用した河川氾濫予測システムを実験する茨城大工学部の斉藤修特命教授。

河川に設置したカメラで増水時の水位や濁度の変化を撮影し、得た情報をAIに学習させ、氾濫予測につなげる。過去の増水データが多いほど精度が上がるため「多くの自治体に協力をお願いしたい。境目のない連携が安全につながる」と呼び掛ける。（豪）

を通し、様々な分野で活躍した赤水の生き方を感じ取ってもらえれば」と話している。

B6判276ページで、500円（税別）。懸賞金10万円。感想文（800字以内）も募集している。問い合わせは、顕彰会事務局（090・1846・6849）。

政府広報 | 内閣官房

いったい何者？  
江戸の地図男！  
ながく、ほ、せき、さい  
長久保赤水展

歴史好き・地理好きの方、  
行ってみませんか？

7月22日(月)～8月4日(土)  
市政会館地下1階  
(東京都千代田区日比谷公園一三)  
詳しくは▼領土・主権展示館

入場無料

**デスク日誌**

内閣官房の領土・主権展示館(東京)で、水戸藩の儒学者、長久保赤水(1717～1801)の特別展が開催中だ。代表的業績である「改正日本輿地路程全図」に竹島の記載があることに加え、赤水の遺業を紹介している▼赤水が、領土問題に絡めて着目されたのは画期的だ。同館によると、赤水の地図は「竹島が(当時)から日本領と見なされていた証」とい

**赤水地図に領土の視点**

う▼同館は、竹島と尖閣諸島について、国民の啓発が目的。基幹の展示から、日本の領有権の主張を、政府が努めて国際社会の理性に働き掛け、展開する戦略だと分かる▼領土問題は、かつては統治者・為政者マターだっただろう。だが、民主主義国家では、国民一人一人の自覚が求められる。領土を守ることに、郷土の先達、赤水はどんな観念を持っていたのか。遺された文章があれば、読んでみたい。(整理部・佐川友一)

平成30年7月25日 茨城新聞

**赤水地図の特長解説** 都内  
特別展でギャラリートーク

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の特別展が開かれている東京・日比谷の領土・主権展示館で21日、長久保赤水顕彰会(同市)の佐川春久会長



佐川春久会長(中央)が展示されている地図を解説しながら長久保赤水の業績を紹介した▼領土・主権展示館

によるギャラリートークが行われた。佐川会長は訪れた約50人を前に、展示された地図など一点一点について解説し、赤水の偉業を強調した。

特別展「いったい何者？江戸の地図男！長久保赤水展」は、同館を所管する内閣官房と同顕彰会が共催。経緯線を入れた日本最初の地図である「改正日本輿地路程全図」(赤水図、レプリカ)など多くの地図を含む20点以上を展示している。8月4日まで。

ギャラリートークで佐川会長は、赤水図の正確さやコンパクトにまとめられた利便性などの特長を挙げながら「江戸末期のベストセラーとも言える地図だった」と説明した。

赤水と伊能忠敬の業績の比較が夏休みの自由研究のテーマという東京都墨田区の小学6年、浜崎孝則君(11)は父直樹さん(47)と2人で訪れ、「すごい地図を間近で見られてよかった」と話した。

同館は午前10時～午後6時。入場無料。土・日は休館。8月1、2両日は、漫画家による子ども向けの漫画教室を開催。4日(最終日)は特別に開館し、2回目のギャラリートークが行われる。いずれも午後2時から。問い合わせは同館 ☎03(6257)3715。

平成30年7月3日 茨城新聞

**赤水の功績全国に**  
特別展 都内で開幕 肖像画や資料23点



長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(左)から資料の説明を受ける福井照領土問題担当相=東京・日比谷の領土・主権展示館

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の特別展「いったい何者？江戸の地図男！長久保赤水展」が2日、東京・日比谷の領土・主権展示館で始まった。同館を所管する内閣官房と長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)の共催。8月4日まで。赤水は経緯線を入れた日本最初の地図「改正日本輿地路程全図」(赤水図)を作成。同地図には竹島が描かれていることから注目されており、顕彰会は今回の展示をきっかけに、赤水の功績を全国にアピールしていく。

開会前には、福井照領土問題担当相と佐川会長らがテープカットで開幕を祝った。佐川会長は「赤水の功績は世界的にも通用するもの。展示資料を通して一人ひとりに赤水を知ってもらうことが、当時の庶民が竹島を日本領と認識していたこと示す証拠の一つとしても注目されている。会場にはほかに、赤水の肖像画や銅像など関連資料23点が展示されている。

福井大臣は「230年以上も前に作られた赤水図には竹島が的確に記載されている。展示が竹島問題をはじめ、領土・主権に関する国民世論の啓発に資することを期待したい」と述べた。

同館は、竹島問題や尖閣諸島を巡る情勢などについて、資料をまとめて展示、紹介する初めての国の施設として1月に開設された。同展は午前10時～午後6時まで。休館日は21日と8月4日を除く土日祝日。入場無料。問い合わせは同館 ☎03(6257)3715へ。(高岡健作)

# 竹島漁業合資会社の創業社員 本名は井口龍太郎

明治時代に竹島（島根県隠岐の島町、韓国名・独島）でアシカ漁を行った「竹島漁業合資会社」の創業社員の一で、ほとんど人物像が分かっていなかった「井口龍太郎」について、本名が「井口龍太郎」で、アシカ漁の成功で豊かな暮らしを送っていたことが日本国際問題研究所（東京都）と島根県隠岐の島町の調査で分かった。竹島での経済活動

## アシカ漁で豊かに生活

の事態解明につながりそうだ。合資会社は1905年、倉吉市出身の実業家・中井善三郎が島根県から竹島でのアシカ漁の許可を得て、井口らと設立。中井が代表社員を務めた。

調査を担う島根法文学部の船杉力修准教授(47)は歴史地理学が、井口のひ孫に当たる同町在住の男性に聞き取

(陰山篤志)

# 赤水の功績描く

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝える活動に取り組み長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）は1日、赤水の人生や功績などをまとめた単行本「マンガ 長久保赤水物語」を発行した。伊能忠敬より42年早く経緯線を入れたのが国最初の日本地図「改正日本輿地略全図」（赤水図）を完成させた人物を子どもたちにも広く知ってもらおうと製作した。

## 顕彰会、漫画だけの単行本

赤水物語はB6判、274ページで500円（税別）。水の帯には福井照領土問題、理学、天文学を学び、「赤



長久保赤水の功績などを紹介する漫画の単行本「マンガ 長久保赤水物語」

## 「子どもにも分かりやすく」

水図』を完成させたのか。学ぶことの意味を考えさせてくれる漫画です」と推薦文を寄せている。漫画は高萩市の黒澤貴子さんが描いた「長久保赤水の生涯」と、日立市の原康隆さんの「長久保赤水の一生」をはじめ、写真や資料、年表などで赤水の生い立ちや業績などを分かりやすく紹介している。「生涯」では猫の「月丸」を案内役に、東北を旅した「東奥紀行」の内容を1冊にまとめるなど、赤水の業績や多岐にわたる交遊を簡潔に紹介。「一生」では、ひたすら学問を修め、多くの出会いを通して自らの道を切り開いていく姿を描いている。佐川会長は「漫画だけの単行本で子どもたちにも読みやすくした。資料も分かりやすく整理しているので、一度手に取ってもらえれば」と話している。懸賞金10万円の感想文（800字以内）を募集している。問い合わせは同顕彰会事務局 ☎090(1846)6849。（飯田勉）

竹島を初めて日本地図に描き、「近代地理学の祖」と呼ばれる江戸時代の地理学者・長久保赤水（1717～1801年）の地図などを集めた企画展が2日、東京都千代田区の領土・主権展示館で始まった。古くから日本人が竹島を自国領と認識していた史実を示す資料の複製など23点が、来館者の関心を集めている。

## 竹島を自国領認識 史実示す資料23点

### 都内で長久保赤水企画展



長久保赤水が手掛けた地図を見る佐川春久さん（右）と福井照領土問題担当 東京都千代田区、領土・主権展示館

8月4日まで。入場無料。赤水は多くの国絵図や地誌などを集めて研究した。代表作とされる「改正日本輿地略全図」（1779年）は日本地図としては初めて経度、緯度線を投影。現在の竹島を示す「松島」と、韓国・鬱陵島を示す「竹島」を表記している。同館であった開幕セレモニーで、赤水の故郷・茨城県高萩市の住民有志でつくる長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(69)が「一人でも多くの人に功績を知ってほしい」とあいさつ。福井照領土問題担当が「竹島が古くから日本の領土と認識されていた貴重な資料」と述べた。企画展は、顕彰会と同館を管理する内閣府が共催した。（白築昂）



領土・主権展示館 特別展示

# いったい何者? 江戸の地図男!

ながくぼせきすい

## 長久保赤水展

2018.7.2 mon - 8.4 sat

[会場] 市政会館地下1階 [開館時間] 10:00~18:00  
[休館日] 土・日・祝(7月21日・8月4日は開館(11:00~17:00))

領土・主権展示館 NATIONAL MUSEUM OF TERRITORY AND SOVEREIGNTY

内閣官房 領土・主権対策企画調整室

長久保赤水先生肖像(茨城県立図書館蔵)



共催：長久保赤水顕彰会

協力：国土地理院、国立天文台 後援：茨城県、茨城県教育委員会、高萩市、高萩市教育委員会

イベント情報 ●ギャラリートーク [開催日時] ①7月21日(土)、28日(土) ●マンガ教室 [開催日時] ①8月1日(水)、28日(土)

領土・主権展示館 〒100-0012 東京都千代田区千代田比谷公園1-3 市政会館地下1階 TEL/FAX 03-6257-3715

入場無料

長久保赤水顕彰会の会員募集とご寄付のお願い

- 会員募集：年会費3千円(個人・法人)
- ご寄付：1口1万円(何口でも結構です。なお、ご寄付をいただいた方には、「継続長久保赤水書簡集」現代語訳の冊子にご芳名と金額を掲載の上、ご送付いたします。)
- 振込口座：郵便局振込口座記号番号 00380-6-9573 加入者名 長久保赤水顕彰会
- お問い合わせ先：090-1846-6849 佐川春久まで、<http://nagakubosekisuui.org/>

長久保赤水顕彰会では、多くの皆様方のお力をお借りしながら、活動を続けていきたいと考えております。●学ぼう赤水を 教科書に載せて 広げよう世界へ●「ひよっこ」の次は、大河ドラマ「長久保赤水伝」を実現しよう!! ●高萩駅前に「紺糸の園」を追加開示しよう●「継続長久保赤水書簡集」現代語訳の出版事業●長久保赤水関係資料の国の重要文化財を目指します。皆様方のご協力をよろしくお願いいたします。

吉田松陰も絶賛!  
EDOのトラベルマップ「赤水図」

江戸時代の庶民にとっての日本地図とは、伊能忠敬が作った「伊能図」ではなく、実は長久保赤水が作った「赤水図」であったことはあまり知られていません。長久保赤水是、約300年前の1717(享保2)年、現在の茨城県高萩市に生を受けました。赤水は、長年考証を重ね、1779(安永8)年、63歳の時、「改正日本輿地路程全図」(赤水図)を完成させました。

長久保赤水顕彰会と「領土・主権展示館」が共催  
特別展を開催!

竹島初めて地図に 赤水の業績知って 東京、あすから企画展

竹島を初めて地図に描き、「近代地理学の祖」と呼ばれる江戸時代の地理学者・長久保赤水(1717~1801年)の地図などを集めた展示が2日、東京都千代田区の政府施設「領土・主権展示館」で始まる。関係者は、領土問題と赤水の業績について知ってほしいとする。



長久保赤水

赤水が生まれた茨城県高萩市の有志らでつくる長久保赤水顕彰会と国が共催する。8月4日まで開く。赤水は農家に生まれた。学才を認められ、第6代水戸藩主の教師役である「侍講」を務めた。地理学に秀でて精密な地図を多数残した。

し、竹島と緯度、経度を記した本格的な地図「改正日本輿地路程全図」(1779年)を手掛けた。企画展では、全図の複製品や、全図作成の基となった「改製扶桑(日本)分里図」(1768年)のパネル、自画像など約20点を展示。赤水や日本人が古くから竹島を自国領と認識していた史実を国内外に伝える。顕彰会の佐川春久会長(69)は「赤水先生の業績の一端を知ってほしい」と話した。(陰山篤志)

竹島教育 大学生にも 松江の資料室 島根大生が史実学ぶ



地図を指しながら竹島問題について語る船杉力修准教授(中央)

高等教育機関で竹島(隠岐の島町、韓国名・独島)問題を学ぶ機会がほとんどない中、島根大法文学部の2~4年生20人がこのほど、松江市殿町の竹島資料室を訪れ、竹島が描かれた古地図の複製品を閲覧し、日本人が古くから竹島を自国領として認識していた史実を学んだ。

韓国では、大学生が問題を徹底的に学ぶプログラムが展開される中、韓国との差を懸念する同学部の船杉力修准教授(48)「歴史地理学」が講義した。船杉准教授は、江戸時代

の地理学者・長久保赤水が作り、竹島が描かれた「改正日本輿地路程全図」(1779年)の複製を紹介し、現在の地図と変わらない精度で描かれていると説明。韓国側が竹島を指すと主張する「于山島」の位置が時代によって変わっていることなど、韓国側の史料のずさんさを指摘した。

学生は「地図を見て日本領だと分かった。韓国側の主張の根拠も知りたくなった」「日本でも小さい頃から問題を学ぶ機会がほしい」との感想を寄せた。船杉准教授は「学生は要点を押さえていた。大学での竹島教育の重要性を再認識した」と話した。(陰山篤志)

# 竹島記載 赤水の地図、政府注目

## 7月、都内で特別展

高秋市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）が手掛けた古地図に、政府が注目している。伊能忠敬より42年前に、経緯線を入れたのが最初期の日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を完成させた。政府は「江戸期の庶民が竹島を日本の領土と認識していたことを示す代表的な資料」と高く評価し、今夏に特別展を開催する。昨年の生誕300年を機に顕彰機運が高まる地元は「赤水の業績を全国に発信したい」と期待を寄せている。（日立支社・飯田勉、東京支社・高岡健作）



「改正日本輿地路程全図」の实物と展示用地図を照らし合わせる山本智嗣参事官補佐（左）ら＝高秋市歴史民俗資料館

■相次ぎ調査 訪れ、赤水図の撮影を行った。「主権展示館」の目玉資料。内閣官房領土・主権対策部は1月に東京・日比谷の「領土」市政会館に開設した。領土館は竹島や尖閣諸島を巡る企画調整室は3月、同市を「赤水図」に大きな価値を感じている」と話した。

長久保赤水 1717年、現在の高秋市赤浜の農家に生まれ、9歳で母を、11歳で父を失い、継母に育てられた。16歳の時に鈴木玄淳の塾に通い、25歳ごろから水戸藩の学者、名越南漢などに学んだ。35歳ごろ、越前藩に召しなされた。日本各地を旅しながら自身の目で国土の地理について学んだ。儒学や天文学も学び、77年に水戸藩6代藩主・徳川治保の待講に抜擢された。江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年に没した。

情勢などを紹介する国の初めでの施設で、同企画調整室の山本智嗣参事官補佐は「赤水図に大きな価値を感じている」と話した。

外務省の委託を受け、政策シンクタンク・日本国際問題研究所（東京）も4月下旬、3日ばかりで赤水の関係資料を調査するため同市入りした。江戸期の庶民が美用し、約5千もの地名・旧跡などが記された赤水図には、竹島が描かれており、当時の庶民が竹島を日本領と認識していたことを示す証拠と注目している。

調査した島根大学法文学部で赤水の功績を伝える活動に取り組み「長久保赤水顕彰会」（会員約350人）の佐川春久会長らが7日、同市役所を訪ね、大部勝規市長に赤水のNHK大河ドラマ化を進める運動展開を求める要望を行った。赤水に関する各種取り組みが市全体の活性化につながることを提案。大部市長は「ぜひやっていきたい」と前向きに取り組む考えを示した。



# 赤水を大河ドラマに

## 高秋の顕彰会 市に運動要望 街おこしの提案も

高秋市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝える活動に取り組み「長久保赤水顕彰会」（会員約350人）の佐川春久会長らが7日、同市役所を訪ね、大部勝規市長に赤水のNHK大河ドラマ化を進める運動展開を求める要望を行った。赤水に関する各種取り組みが市全体の活性化につながることを提案。大部市長は「ぜひやっていきたい」と前向きに取り組む考えを示した。



大河ドラマ化の要望活動は同顕彰会定期総会（5月20日）で承認された。要望では、市内に大河ドラマ実現を推進する部署の設置▽都内で7月開催の赤水特別展会場での署名活動▽市の歴史と文化を生かした街づくりを求めた。

佐川会長は「赤水に焦点を絞り、街おこしにつながることを市全体の活性化につながる」と、大部市長が先頭に立った活動を要望。大部市長は「市全体の活性化に取り組むプロジェクトに組み入れたい」と述べた。

市の街おこし案として、生涯学習として赤水を学ぶ機会の提供▽小中学校で赤水を取り入れた授業の充実▽赤水に関する書籍、施設の充実▽赤水の商標登録を行い、新商品の開発などを提案した。

赤水は伊能忠敬より42年早く経緯線を入れたのが最初期の日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を完成させた。7月2日からは東京・日比谷の市政会館内の「領土・主権展示館」で赤水の特別展を予定。9月29日には都内ゆかりの地を回る「全国赤水ウォーク」も企画されている。（飯田勉）

大部勝規市長（手前）に長久保赤水のNHK大河ドラマ実現のための要望書の内容を説明する長久保赤水顕彰会の役員＝高秋市役所

平成30年5月28日 茨城新聞

部の船杉力修教授は「竹島を初めて日本地図に記したのが赤水。鎖国の時代にもかかわらず、赤水は東アジア全体に関心を持ち、各地のさまざまな書籍や資料を収集して地図をつくり、出版した」と高く評価する。

■背景に領土問題 政府が赤水図に注目する背景には、韓国による竹島の占拠や、中国公船が繰り返す尖閣諸島での領海侵犯など、近年の緊張した領土情勢がある。

外務省は2017年度予算で、領土に関する資料収集や客観的事実を情報発信する「領土・主権・歴史調査研究支援事業」に5億円を新規計上し、18年度も同額を予算化、あらためて赤水図に政府のスポットライトが当たった形だ。

領土・主権展示館は、竹島と尖閣諸島が日本固有の領土であることを説明したパネルや関連資料約60点を展示。「領土と主権の正しい国民理解を深めたい」として、7月に赤水をテーマとした初の特別展を開催する。竹島が記された改正日本輿地路程全図などが広く公開される予定だ。

■顕彰会も期待 調査した島根大学法文学部で赤水の功績を伝える活動に取り組み「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長、会員約350人）は昨年、赤水生誕300年の各種記念事業を展開した。今回の政府の調査にも全面協力している。

同企画調整室は3月に続き4月にも同市を訪れ、佐川会長らと会った。同展示館で7月初旬から約1カ月間、赤水の特別展を開催し、地図や関係資料など約20点を展示する考えを明らかにした。顕彰会の提案で都内の赤水ゆかりの地を巡るウォーキングラリーを9月に開催する予定も組まれた。

平成30年5月19日 茨城新聞（1面）

県民の声

### 高秋の地理学者 赤水を教科書に

▲赤水図が目の目を浴びたのは高秋市長久保赤水顕彰会のお手紙だ。赤水の生誕300年を記念した顕彰行事が昨年、市内で開催された。赤水は地理学者として日本で初の経緯線を入れた日本輿地路程地図を作った。

▲伊能忠敬からも一目置かれた。伊能測量開始200

年を記念して10ののの年からの2年かけて日本を1冊の地図に描いた伊能忠敬が高秋を通過したとき、日本輿地路程地図が市内で多くの資料が公開された。

▲生誕地の前には日本国図碑には経緯線が明確に

打刻され、格闘士藤六氏の揮毫がある。竹島の記載があるのは時代の戦艦にも似て、長久保赤水が教科書に載ることを望んだ。

（水戸市 団体役員 川上 清 82歳）

(2018.5.28)

佐川会長は「都内で赤水の特別展や催しが開催されることになり、大変うれし。今後も連携していきたい」と期待する。

同会は19年に都内で開催される国際地図学会関係者の来市や、国の重要文化財指定に向け取り組んでいくと意気込む。

クロスアイ  
HPに動画

# 島根



**松江支局**  
〒690-0886 松江市母衣町95-1  
☎0852-23-1411 FAX 23-1413

**浜田支局**  
〒697-0027 浜田市殿町17-3  
損保ジャパン日本興亜浜田ビル4F  
☎0855-22-1101 FAX 22-1102

**出雲通信部** ☎0853-22-3388  
**大田通信部** ☎0854-82-0451  
**益田通信部** ☎0856-23-7331

**ホームページ**  
http://www.yomiuri.co.jp/local/shimane/

**販売のご用は** ☎0852-38-8202  
**広告のご用は** ☎0852-21-5718  
**折込広告は** ☎0852-38-8200

## 地図に竹島 東京で赤水展



複製が展示される赤水の「改正日本興地路程全図」の初版（茨城県高萩市で）

### 複製やパネル 「領土問題考えて」

竹島を日本地図に初めて描いたとされる水戸藩の地理学者・長久保赤水（1717～1801年）の企画展示が7～8月、東京都千代田区の領土・主権展示館で開かれる。企画した内閣官房領土・主権対策企画調

整室は「歴史や地理のフックにも、領土問題を考えるきっかけにしてもらいたい」と話している。同室と、赤水の出身地・茨城県高萩市の長久保赤水顕彰会が共催。会期は7月2日～8月4日を予定し

ている。赤水自ら手がけた地図の複製やパネルの展示は同館では初めて。竹島を記した「改正日本興地路程全図」の初版の複製など約20点が展示される。

同図は1779年に初版が刊行され、その後赤水の死後も含めて4回改訂された。60年代に作成され、竹島を描いた最古の地図とされる「日本図」「改製日本扶桑分里図」が下書きとされ、隠岐諸島の北西に竹島と鬱陵島が記されている。また、経線や緯線が初めて書き込まれた日本地図とされる。

展示には、同室が高萩市歴史民俗資料館で撮影した興地路程全図の画像データを和紙に印刷し、色彩や風合いを実物に近づけた複製を使用する。

竹島が描かれていない朝

鮮の地図を写した「朝鮮国図」や、千島列島や北方領土、北海道を詳細に描いた「蝦夷図」の複製も展示する方向で調整している。同室の担当者は「幅広い方々に、竹島や北方領土などに関心を持ってもらうような展示をしたい」と話している。

# 島根



**松江支局**  
〒690-0886 松江市母衣町95-1  
☎0852-23-1411 FAX 23-1413

**浜田支局**  
〒697-0027 浜田市殿町17-3  
損保ジャパン日本興亜浜田ビル4F  
☎0855-22-1101 FAX 22-1102

**出雲通信部** ☎0853-22-3388  
**大田通信部** ☎0854-82-0451  
**益田通信部** ☎0856-23-7331

**ホームページ**  
http://www.yomiuri.co.jp/local/shimane/

**販売のご用は** ☎0852-38-8202  
**広告のご用は** ☎0852-21-5718  
**折込広告は** ☎0852-38-8200

## 長久保赤水の地図を取材して

### 竹島問題新たな啓発法を

#### 取材現場

茨城県高萩市で4月27日、竹島（隠岐の島町）を記した最古の日本地図など約20点を撮影する作業を取材した。竹島の領有権を裏付ける資料を、日本国際問題研究所（東京都）がデータベース化するの目的だ。地図はすべて水戸藩の地理学者・



松江から来たことを告げると、佐川さんは2014年に「竹島の日」の式典に出席したという。竹島に関する資料を提供したとして、島根県が、赤水の子孫・長久保甫さん（故人）を表彰した際、長久保

いたものの実物を見ると感慨深いものがあった。「赤水は、藩主の侍講として政策提言をするほどだった。国防や海防に対する意識も高く、竹島も十分に認識していたはず」。撮影に同席した同市の長久保赤水顕彰会の会長を務める佐川春久さん（68）はそう説明してくれた。

島根に来て1年が過ぎた。県は竹島問題を啓発しているが、取材を通して、県民が竹島問題に関わる難しさを感じている。赤水の功績を伝える人から地図の説明を聞くなどすれば、実感が湧くのではないか。県にも新たな啓発方法を考えてもらいたい。（安恒勇氣）

さんの代理を務めた。「赤水の功績を誇らしく思ったのと同時に、日本の領土問題について改めて意識するようになった」と佐川さんはいう。

今回の事業は、「領土問題を主張する際の論拠としたい」という外務省の補助金も得ている。佐川さんは「せっかくなできた縁だし、島根でも赤水を知ってもらえたらいいね」と話した。

# 赤水の功績全国発信

## 顕彰会 地図や竹島資料展示

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の企画展が今夏、東京都千代田区の「領土・主権展示館」で開催されることになった。主催する民間団体の「領土・主権対東企画調整室」の関係者が27日、長久保赤水顕彰会佐川春久会長と展示内容などについて打ち合わせた。同顕彰会では経緯を記した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を作成した功績などを全国にアピールしていきたい考え。

領土・主権展示館は、竹島問題や尖閣諸島を巡る情勢などについて資料をまとめた紹介する初めての国の施設として1月に開設。同企画調整室と同顕彰会主催



「改正日本輿地路程全図」(右手前)と展示用の複製(左奥)を照らし合わせる山本智嗣参事官補佐(左)ら。高萩市歴史民俗資料館

の企画展は「長久保赤水の日本図と竹島」(仮)と題して7月初旬から約1カ月間、約70平方メートルのスペースに地図や関係資料など約20点を展示する。

同日は同企画調整室の山本智嗣参事官補佐らが同市高萩の市歴史民俗資料館を訪れ、「改正日本輿地路程全図」(初版1777年)から製作した展示用の複製地図と実物の色や文字の調整作業を行い、展示内容などで意見交換した。

山本参事官補佐は「生涯を通じて幅広くひた向きに勉強した人。領土・国土に関心を持ってもらうことにも、赤水の人となりを伝えていければ」と話した。

佐川会長は「都内で赤水先生の歴史学会が開催されることになり大変うれしい。今後も連携していきたい」と期待した。

9月には都内を会場に「全国赤水ウオーグ」東京大会も計画。領土・主権展示館をはじめ、皇居(江戸城)や小石川後樂園庭園(水戸藩上屋敷)など約12カ所のコースで準備を進めている。

(飯田勉)

# 竹島記す古地図 発信

## 東京の研究所がDB化

領土問題などを研究する日本国際問題研究所(東京)が27日、竹島(隠岐の島町)や北方領土の日本の領有権を示す江戸時代の水戸藩の地理学者・長久保赤水(1717〜1801年)の地図のデータベース化を始めた。外務省の領土問題研究に関する補助金事業で、大半が茨城県高萩市の市歴史民俗資料館の収蔵品。古地図をホームページから海外に発信したり、研究者が閲覧したりできるようにする。

(安倍勇気)

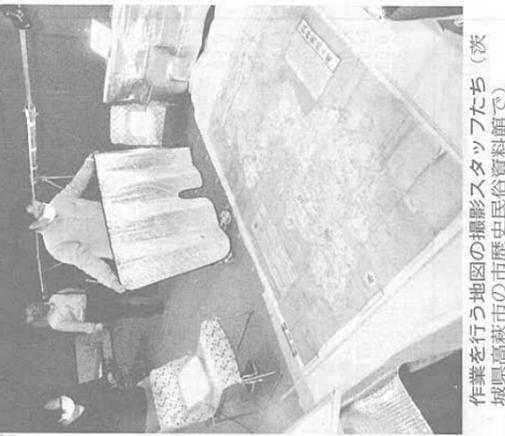
## 長久保赤水「日本図」など22点

外務省は2017年度に領土問題研究を対象とした補助金を創設。同研究所は昨年度から論文や書物などの収集を始め、今年度は一次資料を充実させようとする。古地図の調査に乗り出した。

この日、高萩市の市歴史民俗資料館では、松江市の

映像会社のスタッフが、特殊な装置を使いながら、地図の写真を撮影した。

対象の地図22点のうち20点は、赤水の子孫が同資料館に寄贈したもの。14点には、竹島を日本領として描いた最古の地図とされる「日本図」も含まれるほか、北方領土、尖閣諸島が描か



作業を行う地図の撮影スタッフたち(茨城県高萩市の市歴史民俗資料館で)

2018年(平成30年)4月28日(土曜日) (第3種郵便物認可)

しい島根大の船杉力修准教授は「朝鮮側が竹島の存在を知らなかった可能性が高いことを示す資料とする。朝鮮国図は、1797年以前に幕臣が持つ地図を赤水が写したとされ、地図に記載された地名などから1684〜1767年の朝鮮半島の景観を示すと推測している。同じく未公開の蝦夷国図には、竹島が描かれておらず、鬱陵島の西には実在しない島干山島が書かれていた。竹島問題に詳しい。江戸期の朝鮮半島を記したとされる未公開の「朝鮮国図」には、竹島が描かれておらず、鬱陵島の西には実在しない島干山島が書かれていた。竹島問題に詳しい。同研究所の斎藤康平特別研究員は、「地図は、赤水が竹島や北方領土を日本領だと認識していたことを示す貴重な資料」とする。外務省政策企画室も「領有権の主張にはしつかりとした論拠が必要。資料の掘り起こしをさらに進んでほしい」と期待する。

平成30年4月28日 読売新聞

平成30年4月29日 読売新聞

水戸藩の長久保赤水の「日本図」データベース化。日本国際問題研究所(東京)が27日、江戸時代の水戸藩の地理学者・長久保赤水(1717〜1801年)の地図のデータベース化を始めた。大半が高萩市歴史民俗資料館の収蔵品で、古地図をホームページから海外に発信したり、研究者が閲覧できるようにしたりする。市歴史民俗資料館ではこの日、映像会社のスタッフが特殊な装置を使いながら、地図の写真を撮影。対象の地図22点のうち20点は、赤水の子孫が同資料館に寄贈した。14点には、竹島を日本領として描いた最古の地図とされる「日本図」も含まれるほか、北方領土、尖閣諸島が描かれている。同研究所は領土問題を研究しており、この事業は外務省の補助金を活用して行われた。斎藤康平特別研究員は、「地図は、赤水が竹島や北方領土を日本領だと認識していたことを示す貴重な資料」とする。外務省政策企画室も「領有権の主張にはしつかりとした論拠が必要。資料の掘り起こしをさらに進んでほしい」と期待する。

# 最優秀に中間さん(中学3年)

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保 赤水の一生を描いた漫画「長久保赤水の一生」 最優秀作品には東京都在住の中学3年生、中間乃さん(15)の「努力に勝るものはなし」が選ばれた。

## 漫画「長久保赤水の一生」感想文

赤水の功績を研究する長 久保赤水顕彰会(佐川春久 会長、会員約320人)が、発行。全国から20点が寄せられ、赤水生誕300年を記念 された。



漫画「長久保赤水の一生」感想文で、最優秀作品に選ばれた中間乃さん(右) 高萩市高萩

## 高萩で存在、功績PRへ表彰式

式で石平光副会長は「立派な感想文を全国から頂いた。これを機に赤水の存在や功績を広くPRすることや協力してほしい」と呼び掛け、受賞者に表彰状と記念品などを手渡した。 中間さんは「祖父母が茨城県に住んでいるので親近感が湧いて応募した。赤水が恵まれない境遇から努力で大きな功績を残したことを知って、自分も努力を重ねて立派な人になりたい。赤水を友人にも紹介していきたい」と話した。 農家に生まれた赤水は、儒学や天文学、地理学などを修め、1779年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成した。61歳で水戸藩6代藩主徳川治保に学問を講じる侍講に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸で81歳まで暮らし、85歳で死去した。

(飯田勉)

## 顕彰会、赤水の墓参り

### 記念事業の終了報告

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の功績を伝える活動に取り組む長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)は、赤水の誕生日の8日に合わせて墓参りを行った。同会では今年が生誕300年に当たることから、



同市赤浜の墓所には同会員や親族など10人が集まり手を合わせた。赤水の長男の子孫、長久保和良さん(86)は「先祖の霊を祭りながら、皆さんの助

長久保赤水の誕生日に墓参りした赤水顕彰会員と親族 高萩市赤浜

けを借りて赤水の功績を広めていきたい」と話した。

同会では今後、2019年に東京開催の国際地図学会の関係者の来市や国の重要文化財の指定に取り組んでいく。佐川会長は「若い人たちに赤水の努力する姿勢や学問の仕方、生き方を役立ててもらえれば」と話した。

赤水は1717年に同市赤浜の農家に生まれ、儒学や天文学、地理学を学び、79年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成。77年に水戸藩6代藩主・徳川治保の侍講に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年に没した。

### 顕彰会、感想を募集

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の功績を研究する長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）は9日、赤水生誕300年を記念した本「マンガ長久保赤水の生涯」を発行した。赤水の幼少から晩年までを漫画で紹介。同顕彰会の25年の歩みや赤水関係資料の有形文化財の指



「マンガ長久保赤水の生涯」を描いた黒澤貴子さん（左）と長久保赤水顕彰会の佐川春久会長。高萩市高萩

定など盛りだくさんの一冊となった。漫画は同市在住の黒澤貴子さん（50）が描いた。猫の「月丸」をストリークのナビゲーターとして登場させ、仲間と東北を旅した「東奥紀行」の内容を1ページにまとめるなど、月丸を上手に使うことで赤水の業績や多岐にわたる交遊を100ページに収めた。黒澤さんは「エピソードが多すぎて描き足りないくらい。何が一番大事なのかを見極める赤水の力を感じ取ってもらえれば」と話す。

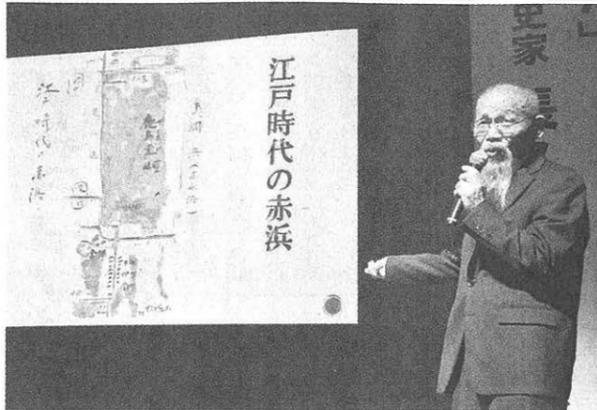
このほか同顕彰会が取り組んできた生誕300年記念の各事業なども紹介。佐川会長は「欲張りすぎるほどの内容。多くの人に赤水の業績を知ってもらえれば」と期待する。B5判213ページ、千円（税別）。同漫画では懸賞金10万円の感想文を募集する。年齢、職業、国籍、性別、住所など不問で原稿用紙800字以内。締め切りは2018年3月31日。〒318-0103 高萩市大能341 長久保赤水顕彰会感想文係（佐川春久）に郵送。問い合わせは同顕彰会事務局（佐川）☎090（1846）6849（飯田勉）

## 赤水の生涯、漫画に

## 赤水を顕彰、魅力発信

### 高萩で生誕300年記念式典

高萩市出身で地理学の祖といわれる長久保赤水の生誕300年記念式典（同実行委員会主催）が10月28日、同市高萩の市文化会館で開



江戸時代の赤水  
「私の見た赤水さん」と題して基調講演する郷土史家の長久保源蔵さん。高萩市高萩

「多くの研究者によって貴重な資料が県文化財となった。この機会に一人でも多くの人に赤水の業績を見直してもらえれば」とあいさつ。小田木真代市長は「学びの楽しさの機会につながることを期待している」と述べた。

基調講演で長久保氏は赤水の生誕地や系図、関係資料などから分かる赤水の人物などを紹介。「平和が続く、本人の才能と努力、周囲の支えが大成につながった」と話した。

パネルディスカッションは京都府立大学准教授の上杉和央氏が「長久保赤水の地図作製」、神戸市立博物館学芸課長の小野田一幸氏が「改正日本輿地路程全図の評価と受容」、茨城大学教授の小野寺淳氏が「長久保赤水から酒井捨彦へ」水戸藩における地図作製の系譜」、大阪大学名誉教授の

小林茂氏と甲南大学教授の鳴海邦臣氏が「ロシアと英国の海図に反映された長久保赤水日本図」をテーマに、それぞれ講話した。上杉氏は「赤水が地図や書籍、旅行、伝聞など地理的知の探求に関わる手段を駆使し、二十余年にわたって日本を考究する姿がすごい」と話した。

赤水は1717年、同市赤浜の農家に生まれ、儒学や天文学、地理学を学び、79年に経緯線を入れた日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成。77年に水戸藩6代藩主・徳川治保の侍講に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸で97年まで暮らし、1801年に没した。（飯田勉）

# 赤水のぼり旗設置

## 高秋 生誕300年記念事業PR



長久保赤水の生誕300年記念事業をPRするのぼり旗を設置する実行委員会メンバーら。高秋市春日町

高秋市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の生誕300年記念事業に取り組み実行委員会（石平光実行委員長）は26日、JR高秋駅前から10月開催の記念事業の会場となる市文化会館までの約1.5キロ区間にPR用ののぼり旗を設置した。

のぼり旗には、赤水直筆の手紙や資料から「赤水」の文字と落款を拡大して印刷。100本を製作し、同駅構内や駅前ロータリー、商店や個人宅に依頼して市文化会館までの道路の両側に設置していた。

10月に実施する記念事業は、1日から

市歴史民俗資料館で県文化財指定記念特別展、9日に市文化会館で小惑星「Nagakubo」誕生記念式典、28日には生誕300年記念式典が開かれる。同駅前通り商店会の藤枝伸夫副会長は「300年の節目の記念事業なのでPR

に協力していきたい」と商店会の中でバランスよく配置する考え。石委員長は「のぼり旗を立てることで高秋の生んだ地理学者の業績を改めて認識し、市民運動にまで高めていきたい」と話した。

（飯田勉）

# 赤水の物語をCDに

## たかはぎFM 朗読放送を音源化した理由が分かる」とPRしている。



長久保赤水の物語の朗読を収めたCD10枚組

高秋市のコミュニティ放送局「たかはぎFM」同市春日町、鈴木拓雄理事長、周波数76.8MHzは、昨年1年間に放送した同市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の物語の朗読をCD化し販売を始めた。同FMでは「CDを聞くと赤水の地図作りの始まりや経緯線を入れた地図を作った理由が分かる」とPRしている。

赤水の朗読放送は、日曜日午前8時半～同45分の15分番組「高秋読み物語」で行われた。昨年1月から今年1月までの1年間で56回放送された。月曜、火曜日には再放送もされた。番組では同FMのパートナーティ、島山久子さんが横山悦亮著「清學の士 長久保赤水」（発行所・ブイソーリレーション、発売元・星雲社）を朗読。島山さんの感動が伝わる朗読が評判となり、同FMでは「声を通して赤水を知ってほしい」とCD化に踏み切った。CDは10枚セットで2000円（税込み）。問い合わせは「たかはぎFM」☎0293(44)3620。

# 小惑星に赤水の名祝う

## 高秋で記念式典 経緯紹介の講演も

高秋市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水の名前が小惑星に付けられたことを記念した式典と講演会が、同市高秋の市文化会館で開かれた。小惑星「15763 Nagakubo」の命名者が講演し、命名の経緯などを紹介。天文学者でもあった赤水が天文学を地図作りにどのように生かしていったのかを考えた。



式典では赤水生誕300年記念事業実行委員会の石平光実行委員長が「赤水の天文学、現代の天文

学を考えるきっかけになれば」とあいさつ。命名に尽力したアマチュア天文家の渡辺和郎さん、元日立市天気相談所長の富岡啓行さん、すばる天文同好会の川口和彦さん、すばる天文同好会の3人から同市教委の小沼公道教育長に、小惑星「Nagakubo」の命名額が贈られた。講演は渡辺さんと、国立天文台副台長の渡部潤一さんがそれぞれ行った。渡辺さんは小惑星が発見されてきた歴史や、「Nagakubo」命名の経緯などを紹介。「発見される小惑星の中では大きな部類。自慢してほしい」と話した。「Nagakubo」の命名は昨年4月に国際天文学連合の小惑星回報で公表された。直径約10キロと推定され、太陽の周囲を楕円軌道でおよそ4.51年かけて1周する。1992年に渡辺さんらが発見し、固有名

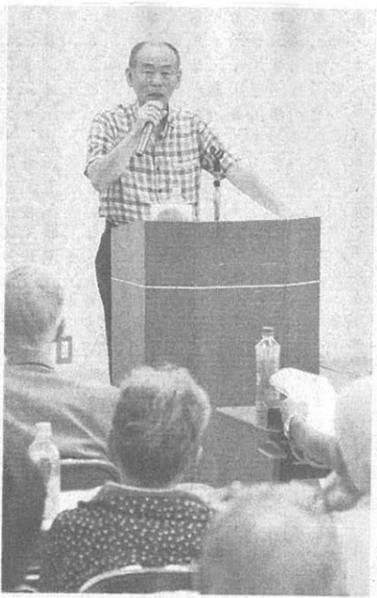
が付けられないまま登録番号と仮符号のみの状態だった。

（飯田勉）

# 赤水の功績紹介

## 日立で顕彰会長講演

日立市民科学文化財団の文化サロンが16日、日立市若葉町の日立市民会館で開かれ、高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水についての講演会が開かれた。赤水の功績を伝える活動に取り組み「長久保赤水顕彰会」の佐川春久会長が



長久保赤水の功績を紹介する佐川春久会長（日立市若葉町）

かりやすく示されている。国の指定文化財にするために、地元から声を上げていかなければならない」と理解と協力を求めた。

赤水は現在の同市赤浜の農家に生まれ、儒学や天文学、地理学を学び、1779（安永8）年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成した。61歳で水戸藩6代藩主・徳川治保の侍講に抜てきされ、江戸小石川の水戸藩邸で80歳まで暮らして85歳で亡くなった。

同顕彰会では記念事業で、漫画「長久保赤水の一生」の出版や第1回全国赤水ウォーク大会、オリジナルの製作と小学生への寄贈などを実施。今後は県指定文化財記念特別展や記念講演、記念式典などを予定している。

# ぐるっとめぐり

「長久保赤水顕彰会」会長

佐川 春久さん (68)

高萩市出身の儒学者で地理学者の長久保赤水の功績を顕彰し伝える活動に取り組む。今年が赤水の生誕300年で、長久保赤水顕彰会の創立25周年に当たる。1月から英語のホームページを立ち上げ、「赤水の一生」を紹介する漫画本の出版やゆかりの地を巡る全国赤水ウォーク大会、資料展の開催と忙しい日々を過ごす。「各種の情報発信で歴史的な価値が浸透し始めている」。会長就任時の2012年の会員数は約80人で、記念の年の現在は300

# 次世代に功績伝える



人に迫っている。生まれも育ちも東京。結婚を機に妻の出身地の高萩へ。市広報広聴課時代に同顕彰会

の会員募集記事を書いたことが関わるきっかけ。「生涯学習の先人であり、国際化、情報化時代の先駆け。地図も見

る側の立場で制作している。さらに61歳で藩主に学問を教える侍講に抜てきされ、命を懸けて農政改革を実現した。日本が世界に誇れる人物」と赤水の人間性にほれ込む。10月には県文化財指定記念特別展、小惑星「Nagakuubo」誕生記念式典、生誕300年記念式典と記念事業の山場を迎える。「記念事業をまとめることで国指定を目指したい」と意気込む。「次世代に正しく赤水の功績を伝えていきたい」

(飯田勉)

高萩市出身の江戸中期の地理学者、長久保赤水の生誕300年を記念した切手販売に合わせ27日、赤水の顕彰会と東北郵便局の関係者が高萩市役所を訪れて小田木真代市長にフレーム切手を贈呈した。

82円切手10枚で構成され、伊能忠敬の日本地図より42年早く制作した「改正日本輿地路程全図」をはじめ、赤水が完成させた地図6点を切手の図案にした。関係者によると「古地図の切手は国内初」という。

小田木市長は「郷土が生んだ赤水を子供たちにもっと知ってもらういい機会。市のPRにもつながる」などと歓迎した。東北6市町87局で計540シートを販売する。1シート1300円。

**業績伝える古地図切手**  
地理学者・長久保赤水生誕300年



長久保赤水の生誕300年を記念して発行されたオリジナルフレーム切手（田中千裕撮影）

**赤水記念切手を寄贈**

日立河原子郵便局長ら 高萩市長を表敬



高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1779～1801年）が完成させた地図などを使った記念切手発売を受け、日立河原子郵便局の松田考史局長（東北地区連絡会副統括局長）らが27日、高萩市役所仮設庁舎を訪れ、小田木真代市長に記念切手を贈った。古地図が切手になったのは

初めてという。赤水の功績を伝える活動に取り組み「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長、会員291人）が記念事業として企画。日本初の経緯線が入った日本地図「改正日本輿地路程全図」や赤水の日本地図の原図「改製扶桑（日本）分里図」など、82円切手10枚1シートで1300円（税込み）。東北6市町村の全87郵便局で21日から販売を始めた。

贈呈式で松田局長は「郷土の偉人の功績を広く伝える機会にしたい」と記念切手を手渡した。小田木市長は「顕彰会などと記念事業を成功させたい」などと述べた。

**長久保赤水の地図を切手に**

東北6市町で販売

江戸時代中期の天文・地理学者の長久保赤水（1779～1801）の生誕300年を記念したオリジナルフレーム切手の販売が、出身の高萩市を含む東北6市町の郵便局で21日から始まった。

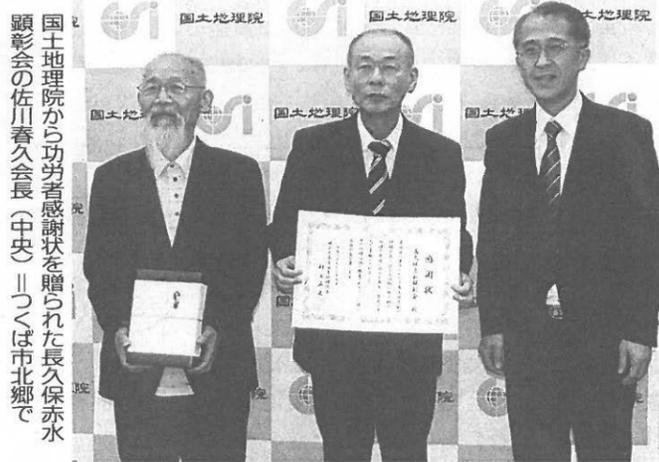
切手は1779年に赤水が完成させた日本初の経緯線の入った「改正日本輿地路程全図」や赤水の自画像、晩年に編集に携わった大日本史地理志などを図案化した82円切手10枚つづりで、1シート1300円。



販売が始まった長久保赤水生誕300年記念フレーム切手

台紙には、赤水の地図の原図とされる「改製扶桑（日本）分里図」も印刷され、赤水が何度も手を加えた跡がみてとれる。高萩市のほか、日立、常陸大宮、常陸太田、北茨城市と大子町のすべての郵便局（一部の簡易郵便局を除く）で発売中だ。

企画した長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（67）は「赤水の業績がひと目でわかる。子供たちも含め、赤水への理解が深まってほしい」と語る。郵便局分計540枚のほか、顕彰会も500枚を販売する。問い合わせは顕彰会事務局（090・1846・6849）。



国土地理院から功労者感謝状を贈られた長久保赤水  
顕彰会の佐川春久会長（中央）とつくば市北郷で

**長久保赤水の功績発信**  
**「顕彰会」に感謝状**  
国土地理院は、高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801）の功績を国内外に発信している「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長）に功労者感謝状を贈った。地理院は毎年「測量

の日」（6月3日）に合わせ、測量や地図に関する普及啓発活動で功績のある個人、団体を表彰している。同会は約25年にわたり、赤水が残した資料の整理を進めたほか、生誕300年の今年は英語版のホームページを公開したことが高く評価された。赤水は経緯線の入った日本初の地図「改正日本輿地路程全図」を作成した。佐川会長は「地図の功績だけでなく、儒学者、水戸藩の政策アドバイザーとして人間性にも優れた人だったが、なかなか知られていない。これを機に赤水の生き様についてもぜひ知ってほしい」と話した。

【大場あい】

# 偉業発信の功績評価

## 功労者「赤水顕彰会」に贈呈

測量や地図に関する普及、啓発に功績のあった個人や団体をたたえる国土地理院の「功労者感謝状」の贈呈が4日、つくば市北郷の同所で行われ、本県の「長久保赤水顕彰会」が感謝状を贈られた。近代地理学の祖といわれる長久保赤水（高萩市赤浜出身、1717～1801年）の偉業を、長年にわたり国内外に伝えている活動などが評価された。

国土地理院

赤水は江戸時代の地理学者で、日本の詳細な地図を纏め、一般に広く流通させた。回顕彰会は赤水の功績を研究している団体。今年1月に開設された回



国土地理院から功労者感謝状を贈呈される長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（中）と長久保源蔵さん（左）とつくば市北郷の国土地理院

顕彰会のホームページは英文にも訳され、赤水の業績や作製地図を世界に向けて配信している。同じく今年1月には漫画「長久保赤水の一生」（B5判192頁、税別千円）も発行した。

贈呈式では、会長の佐川春久さん（67）、顧問の長久保源蔵さん（86）の2人が村上史国土地理院長から感謝状などを受け取った。村上史院長は「業績は極めて大きい。今後も取り組みの一層の充実を期待している」などとたたえた。

佐川会長は「赤水の生誕300年の年に感謝状を頂き、タイミングが良かったと思う。8月にも赤水の漫画『長久保赤水の生涯』を発行する予定。若い人に読んでもらい、赤水の生きざまについても学んでほしい」と話した。

（高阿田総司）

# 切手発行や講演企画

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の功績を伝える活動に取り組む「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長、会員284人）の定期総会が5月28日、同市高萩の市中央公民館で開かれた。赤水生誕300年を迎える本年度の記念事業として、生誕300年記念オリジナル切手の発行や記念講演会の開催などに取り組んでいくことを決めた。

## 顕彰会

### 長久保赤水生誕300年

総会に先立ち、記念事業の一環として赤水の自画像や自筆の「改製扶桑（日本）分里図」（1768年）などを印刷したクリアファイル2200枚を市に贈呈した。小中学生と教職員に配布する。佐川会長は「目で赤水の業績が分かる。子どもたちに理解を深めてもらえれば」と市教委の小沼公道教育長に目録を手渡した。

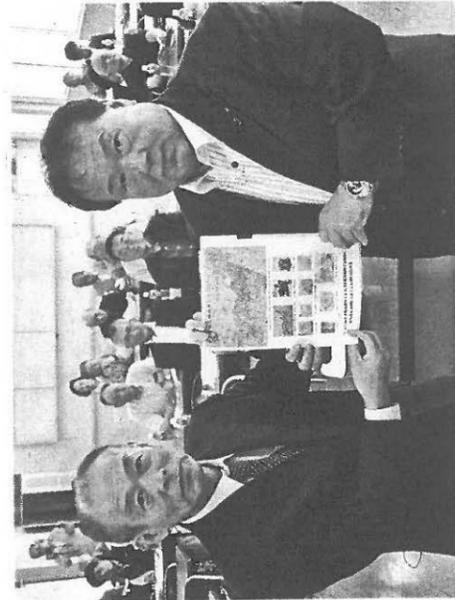
総会では既に実施した「長久保赤水の一生」の漫画本の出版（1月1日）や第1回全国赤水ク

### 高萩の小中生に寄贈 クリアファイル

オーク大会（4月22日）、市歴史民俗資料館でのミニ資料展（2月7日～5月14日）などの成果を報告。本年度の事業計画や予算案を原案通り承認。会員が昨年の197人から284人に増加していることも報告された。

今後の記念事業ではオリジナル切手の発行（6月21日）や小惑星「長久保赤水」誕生記念講演会（10月9日）、市主催の記念式典・講演会（10月28日）、県立図書館で長久保赤水展の開催などを予定している。ホームページでは地図の解説を英語版で掲載し、世界に情報を発信する準備を進めている。

総会後、茨城大教育学部の小野寺淳教授が「長久保赤水の地図・地図上の評価と研究課題」と題して講演。「地球万国山海輿地全図」（1785年ごろ）を中心に解説「新たな発見をすぐに刊行図に修正を加え続け、正確な地図の作製に努めた」と赤水の学者魂を評価した。（飯田勉）



長久保赤水の功績を印刷したクリアファイルを小沼公道教育長（右）に手渡す佐川春久会長＝高萩市高萩

### 長久保赤水生誕300年

## 特別展や講演会開催へ

高萩市は今年が同市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の生誕300年に当たることから、記念事業実行委員会を立ち上げ、5

月30日に第1回実行委を開いて取り組む事業内容などを決めた。赤水の功績を顕彰するとともに、関係資料の新たな活用によって地域活性化につなげていく。

高萩市実行委



実行委は赤水の功績を伝える活動に取り組む「長久保赤水顕彰会」や高萩ウォーキングクラブ、天文同好会などの役員ら16人で構成。10月に長久保赤水生誕300年記念事業に取り組む実行委員会が立ち上がった。高萩市高萩

誕300年記念・具指定有形文化財指定記念式典や市歴史民俗資料館での特別展のほか、同顕彰会が企画した小惑星「長久保赤水」誕生に関する講演会も同時開催することが提案された。

同顕彰会副会長の石平光実行委員長は「市と一緒に取り組む組織ができたこと

にも取り組んでいく。実行委では赤水に関係する夏休みの自由研究や演劇の発表など子どもたちが参加できる企画の必要性などが提起された。

（飯田勉）

# 地図作り情熱の痕跡

## 長久保赤水の特別展 出身地・高萩

江戸時代中期の天文・地理学者で、高萩市出身の長久保赤水（1717～1801）の地図などが県指定文化財になったのを記念するミニ特別展が、同市歴史民俗資料館で開かれている。地図の進歩や、赤水の地図作りへの情熱がうかがえる。5月14日まで。

県指定を受けた693点のうち18点を展示。1768年に完成した「改製扶桑（日本）分里図」は赤水の日本地図の原図だ。農業を続けながら約20年かけて作り、新情報を得るたびに和紙を貼ったり、胡粉を塗ったりして修正



「改正日本輿地路程全図」の本県部分。2版では那珂川河口から利根川河口までの海路が「二十里」と記された

## 新情報得るたび修正

した跡が生々しく残る。原図をもとに1779年に完成させたのが「改正日本輿地路程全図」。経線と緯線を日本で初めて記したもので、伊能忠敬の日本地図の42年前のことだ。この地図も次々に情報が加えられ、12年後にできた2版では、郡の境界線や海路が示され、地名も倍以上の5千～6千カ所記されている。

高齢の赤水を心配して帰参を願う息子たちへの返書には、「大日本史 地理志」編纂で筆をとって死ねることは本望だとの決意を記している。

特別展を企画した長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（67）は「地図に命をかけた赤水の思いや痕跡がわかる」と話す。赤水生誕300年を記念し、同資料館で秋に特別展「赤水の世界展」を予定している。問い合わせは同館（0293・23・7229）。入場無料。（服部肇）

# 赤水の記念切手発売延期

高萩市出身の江戸期の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の生誕300年を巡り、19日に発売予定だったオリジナルフレーム切手がデザインミスで延期になった。企画した顕彰会の指示に反し、誤って別の地図名の一部を入れていた。印刷し直して、早ければ6月下旬に発売する予定。

この切手は、地元の愛好家たちで作る「長久保赤水顕彰会」（佐川春久会長、会員284人）が記念事業として企画した。

82円切手10枚で1シートになっており1300円。19日から東北6市町の87郵便局で540シートを販売するほか、顕彰会が500

## 地図名デザインミス 来月下旬に



シートを買い上げる予定だった。顕彰会によると、今月17日に届いた完成品を確認したところ、赤水が完成させた日本初の経緯線が入った日本地図「改正日本輿地路程全図」（通称・赤水図）の説明文が「改正扶桑（日本）輿地路程全図」となっていた。

日本郵便関東支社によると、赤水が作成した別の地図である「改製扶桑（日本）分里図」を見て、社員が顕彰会に確認しないまま勝手に修正したのが原因とみられる。

同支社は「関係者に多大な迷惑をかけて申し訳ない。再発防止に努めたい」と陳謝した。

佐川会長は「発売を楽しみにしていた人も多かったので残念」と話した。

【佐藤則夫】

# 赤水の偉業思はせ

## 高萩で 歩く会 誕生300年、墓や旧宅巡る

高萩市出身で近代地理学の祖といわれる長久保赤水(1777~1801年)の誕生300年を記念したウォーキング大会が22日、赤水ゆかりの地を巡る市内のコースで初めて開催された。縄線と経線を描いた日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させるなどの業績を残した赤水を全国に発信しようと企画。参加者らはウォーキングを楽しみながら赤水の偉業に思いをはせていた。

赤水は農家に生まれながら、天文学、地理学などを学び、水戸藩の代官として徳川治保に学問を講ずる待講に抜擢された。「第1回全国赤水ウォーキング」は、高萩ウォーキングクラブ(堀内豊会長)、高萩ふるさと案内人の会(石平光代表)、長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)が協力して実施。県内外から予定数を大きく上回る約230人が参加した。古河市南町の森田豊子さんは「高萩に来たこと

がなかったので、良い機会と思って参加した。初めての景色を楽しみながら歩きたい」と笑顔。日立市鮎川町の長山茂さん(70)は「赤水をもっと盛り上げようと仲間を誘ってきた」と元気に歩いた。

コースは1852年に吉田松陰が高萩市下手綱の阿久津彦五郎(璞斎)方を訪ねて来た際、松陰は彦五郎と一緒に赤水の墓を参つてから東北地方に旅立ったことにちなんで、赤水像のあるJR高萩駅や赤水生誕地、赤水の墓、赤水旧宅など約10キロを歩いた。市歴史民俗資料館で開催中の赤水のミニ特別展も見学した。

ウォーキング大会の石平実行委員長は「多くの参加者があってうれしい。赤水と高萩の自然の良さを感してもらい、まちの活性化につながれば」と話した。

(飯田勉)

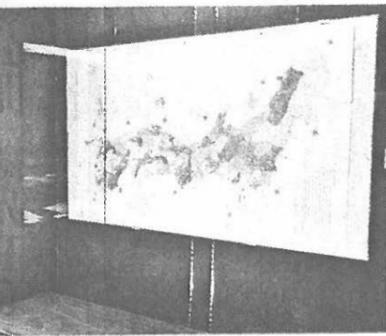


JR高萩駅前建立された赤水像の前で説明を受ける参加者＝高萩市高萩

# 赤水の日本地図展示

## 高萩業績伝える資料18点

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水に関する資料を展示する真指定文化財記念ミニ特別展が、同市高萩の市歴史民俗資料館で開かれている。赤水の日本地図の原図「改製扶桑(日本)分里図」など18点を紹介している。5月14日まで。



赤水の関係資料693点が1月に真指定を受けたことから企画。赤水は農政学書や天文学書、地図、紀行文など多くの業績を残した。地図の製作過程をはじめ、赤水の業績の解明につながる学術的価値が極めて高い資料群で、今回は赤水の人物像や勉強の成果などが分かる資料を展示している。

改製扶桑分里図は、「改正日本輿地路程全図」の原図の一つと考へられており、地形や地名

赤水自筆の日本地図「改製扶桑分里図」など18点を展示し、5月14日まで。ミニ特別展＝高萩市高萩

に胡粉による修正の痕跡が見られ、赤水が得た情報によって修正を加えたことが分かる。改正日本輿地路程全図(2版)では海路が新たに加えられ、地図の進化が分かる。赤水の息子たちからの帰参を願う手紙に対する書簡も展示。高萩への心配に赤水は「大日本史 地理志」の完成のために寸暇を惜しんで研さんしており、「地理志」を書きながらなら死んでもよいという決意を述べている。

今年、赤水誕生300年で、同資料館では秋に特別展「赤水の世界展」を行う予定でいる。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長は「英知を結集した資料ばかり。一度は見してほしい」と話している。入場無料。開館時間は午前9時半～午後5時50分。月曜休館。問い合わせは同資料館

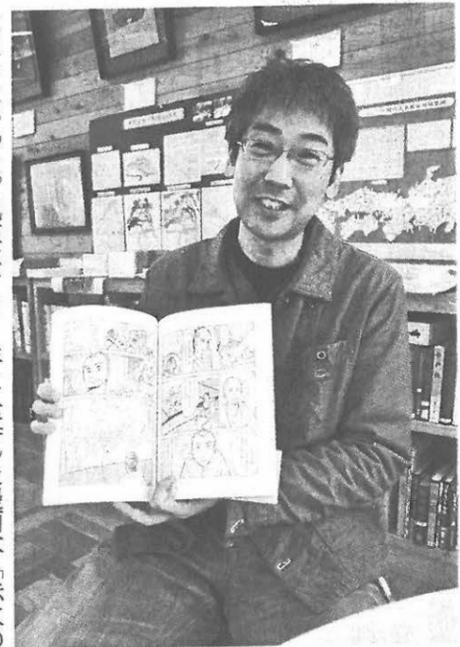
0286(33)2372290。(飯田勉)

漫画「長久保赤水の一生」を描いた

原康隆さん(42)

### ぐるっとめぐり

1月に出版された高萩市出身で近代地理学の祖といわれる長久保赤水(1717~1801年)の人生を紹介する漫画「長久保赤水の一生」を描いた。「いろんなことを話め込み過ぎたかなとも思っているが、イメージ通りにできた」と発刊にほっとする。



幼少から絵を描くことが好きで、テレビアニメの主人公などをノートに書き写していた。小学校低学年の時、祖母が買ってくれた漫画の描き方入門書を手にして漫画家を夢見るようになったが、プロにはならなかった。現在はサラリーマンで、自社の広報誌に挿絵などを載せている。同市教育委員会が1996

## イメージ通り発刊

信吉など同市の四英傑の物語を手掛けてきた。周囲は真面目な人柄が絵に表れていると評する。

「赤水の一生」は何冊もの赤水に関する本を読んでストーリーから作り上げた。副題の「道 知るべ」は、道標にちなみ、学問を通してさまざまな人と出会い、知り合った人の助けを借りて学問の道を歩むことができたことを表す。「人との関わりがあってこそ的人生だと痛感した」と語る。

(飯田勉)

## 吉田松陰が墓参りしたコースも 顕彰の「赤水ウオーク」

来月22日、高萩で初開催

江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)のゆかりの地を歩いて巡る「第1回全国赤水ウオーク」が4月22日、高萩市内で開催される。

顕彰会によると、1852(嘉永5)年、東北地方に向かう途中の吉田松陰が、赤水の



JR高萩駅前設置されている長久保赤水像

長久保赤水顕彰会、高萩ウオーキングクラブなどが主催。今年が赤水の生誕300年にあたるうえ、高萩市などが所有する赤水関連資料693点が県指定有形文化財に登録されたことを記念して企画した。

コースは日本市民スポーツ連盟認定の全長10キロ。高萩市文化館に集合して午前10時に出発。赤水関連資料の特別展を開催している市歴史民俗資料館を見学した後、JR高萩駅前の赤水像、赤水の子供時代の師である鈴木玄淳の墓、赤水の墓、赤水の旧宅などを巡り、約5時間かけてJR南中郷駅にゴールする。

コースは日本市民スポーツ連盟認定の全長10キロ。高萩市文化館に集合して午前10時に出発。赤水関連資料の特別展を開催している市歴史民俗資料館を見学した後、JR高萩駅前の赤水像、赤水の子供時代の師である鈴木玄淳の墓、赤水の墓、赤水の旧宅などを巡り、約5時間かけてJR南中郷駅にゴールする。

【佐藤則夫】

## 赤水ゆかりの地巡ろう

来月22日 高萩 生誕300年記念しウオーク

高萩市出身で近代地理学の祖といわれる長久保赤水(1717~1801年)の生誕300年記念事業実行委員会は、4月22日に「第1回全国赤水ウオーク」を開催する。市内の赤水ゆかりの地を中心とした10キロのコースを設定。同委員会

は1月に発刊した漫画「長久保赤水の一生」の本を手にとり、ゆかりの地を巡ること「赤水の業績に思いをはせてほしい」と参加を呼び掛けている。

「全国赤水ウオーク」常陸の小京都・たつこの里と赤水ゆかりの地を訪ねるは、165年前の1852(嘉永5)年1月21日に吉田松陰が同市下手綱の阿久津彦彦郎(璞齋)方を訪ねて松岡にやって来た。翌日、彦彦郎は尊敬する赤水の話をしたところ、松陰は彦彦郎と一緒に赤水の墓を参りてから東北地方に旅立った。



長久保赤水のゆかりの地を訪ねるウオークへの参加を呼び掛ける関係者 日立市助川町

コースはこのエピソードにちなみ、高萩市文化館を出発し、赤水像のあるJR高萩駅→朝香神社→松岡城址→市立松岡小学校(就將館)→鹿島神社→赤水生誕地→赤水の墓→赤水旧宅→北茨城市のJR南中郷駅(午後3時ごろ)がゴールとなる。

赤水ウオークは高萩ウオーキングクラブ(堀内豊会長)、高萩ふるさと案内人の会(石平光代表)、長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)が協力して企画。今回は「春のコース」として実施し、秋にはベネチア映画祭グランプリ「花火」のラストシーンで知られる赤浜海岸など海沿いのコースで実施を予定している。

堀内会長は「体力と歴史に興味のある人は参加してほしい。赤水を肌で感じ、少しでも関心を持ってもらえれば」と話す。

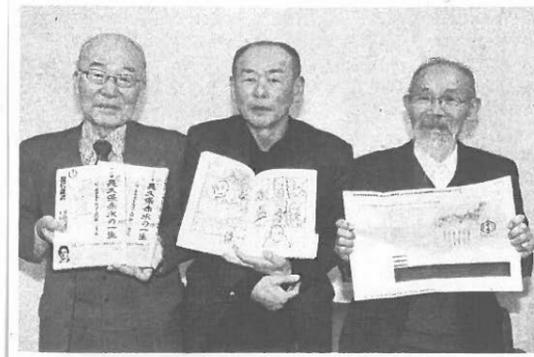
当日は午前9時半に市文化館に集合し、同市歴史民俗資料館で開催中の県指定文化財記念「二特別展」を見学する。参加費無料。申し込み、問い合わせは高萩ウオーキングクラブ☎0293(22)5173。

(飯田勉)

# 長久保赤水の生涯漫画に

江戸時代に地図の刊行など様々な活躍をした高萩市出身の長久保赤水（1717～1801年）の生涯を描いたマンガ「長久保赤水の一生」が出版された。生誕300年記念事業として企画した「長久保赤水顕彰会」の佐川春久会長は「赤水の功績を幅広い世代に広めるため漫画化した。ぜひ小中学生に読んでほしい」と呼びかけている。

赤水は農家に生まれたが、儒学、天文学、地理学など学問に励んだ。50歳を過ぎて水戸藩の武士の待遇に取り立てられ、その後、6代藩主徳川治保に学問を講義する役を務めた。地図の作製にも取り組み、緯線と経線が入った日本地図「改正日本



「マンガ 長久保赤水の一生」を手にする佐川会長（中央）ら顕彰会のメンバー（日立市で）

## 生誕300年◆功績をPR

「興地路程全図」を日本で初めて刊行した。漫画は、顕彰会会員の原康隆さんが担当。赤水が人生を切り開く過程を100コマにわたって表現した。赤水を巡っては、高萩市内に残る歴史資料693点が先月、県有形文化財に指定された。顕彰会は、会のホームページ（<http://nagakubo-sekuni.org>）を開設するなど赤水の功績の周知に力を入れ、2020年までに同資料の国有有形文化財指定を目指す。

「マンガ 長久保赤水の一生」はB5判、192ページ、税抜き1000円。赤水の学問の指針「赤水先生為学入門抄」「志学警」の現代語訳も掲載した。

## 読んだ後は感想文送ろう

顕彰会は、漫画の感想文を募集している。原稿用紙550字以内。氏名、生年月日、職業、住所を明記し、〒318-0103高萩市大能341長久保赤水顕彰会感想文係へ。締め切り6月30日（消印有効）。最優秀作品に賞金10万円を贈る。うち3万円は記念事業に寄付してもらおう。問い合わせと購入は佐川会長（090・1846・6849）へ。

▽長久保赤水の功績を語る現在の高萩市赤浜出身で、江戸時代の儒学者で天文・地理学者でもあった長久保赤水（1717～1801年）の生誕300年を記念して、水戸市の県民文化センターで14日、功績を語る講演会が開かれた。

約180人の参加者を前に、茨城大の小野寺淳教授（人文地理学）が、経線と緯線を日本で



初めて記して刊行した地図「改正日本輿地路程全図」について「天文に関する知識をもとに、緯度上に日本を位置づけた。一つの画期」と評価。赤水が新たな知見はすぐに反映させ、正確な地図を目指した点をあげ、学者として粘り強い研究魂を感じる」と話した。このほか長久保赤水顕彰会の佐川春久会長が、赤水の生涯をたどるマンガの出版活動について紹介した。

# 長久保赤水テーマに講演 第3回県民測量講座を開催

県測量設計コンサルタント業協会（方波見正会長）は14日、県民文化センターを会場に第3回目の県民測量講座を開催した。今回は、1月に関係資料693点が県指定文化財とされた江戸時代の地理学者「長久保赤水」をテーマに講演が行われ、参加者は赤水の功績などに目を傾けた。

県民測量講座は、測量業界への理解を深めることを目的として27年度から開催しているもの。昨年の夏休みには、水戸市内の親子約200人が集まり「古地図で発見！水戸市の魅力」と題して第2回目が行われ、今回も講演を行った茨城大学教育学部の小野寺淳教授を講師に、古地図を見ながら江戸時代の水戸城周辺について知識を深めた。



方波見会長



小野寺教授



佐川会長



県民文化センターには約150人が参加し、講演に耳を傾けた

参院議員が、「茨城の歴史」をテーマに講演した。主催者を代表してあいさつした方波見会長は、昨年4月に公益社団法人化した目的を「測量設計業のビジュアルと担い手育成」などと解説した上で、県民測量講座の開催意義などを説明。また、東京オリンピックに向けて地図記号の表記に議論がある中、地図記号を理解できる若者が少なくなっている状況を「真剣に考えなくてはならない」と指摘した。続けて、「県には測量などに携わった偉人がたくさんいる。今後も歴史などを感じながら、現在の地理学の集大成に持って行きたい」と話し、次回の講座開催に向けて関係者一同の協力を求めた。

講演ではまず、小野寺教授が「地図史における長久保赤水作成地図の評価」と題して講演。経緯線を行って世界にも広まった日本地図「改正日本輿地路程全図」や、中国

図の「大清輿輿図」、中国の歴史地図帳「唐土歴代州郡沿革地図」、世界図の「地球万国山海輿地全図説」などについて解説した。

この中で小野寺教授は、「緯度上に日本を位置づけ、日本地図を世界に広めた」と赤水を評価し、常陸の国の人物の中では世界で最も有名だと力説。今後は、赤水の交友関係や地図に対する数多くの修正に関する研究がさらに必要だとし、「県民として研究をしていく必要性を感じて欲しい」と話した。また、佐川会長は、顕彰会の取り組みなどを紹介し、これまでの顕彰結果を次世代につなぐべく考えを示しながら「東京オリンピックまでには国の文

化財になって欲しい」と話した。

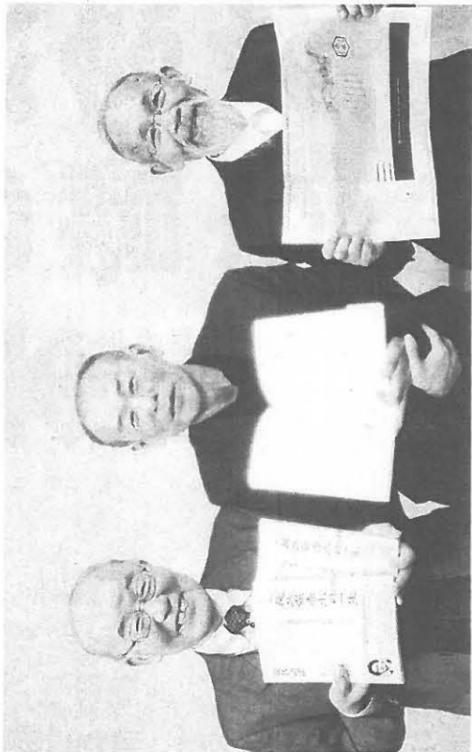
長久保赤水は、享保2年（1717年）に現在の高萩市赤浜で生まれ、享和元年（1801年）に満83歳でこの世を去った。学識に優れ、生涯を通じて農政学書や天文学書、地図製作、紀行文などにも優れた業績を残している。1月26日には、赤水が残した関係資料693点が県有形文化財に指定された。これらをさらに精密に分析することで、赤水の日本図・中国図・世界図の作成過程やその思索の一端をより詳細に知ることが期待されている。

# 生涯描いた漫画本出版

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水(1717~1801年)の生誕300年を記念し、その生涯を漫画で描いた「長久保赤水の一生」が出版された。発行した「長久保赤水顕彰会」の佐川会長は「小中学生にも読みやすい漫画で赤水の功績を次の世代に伝えていきたい」と話している。

【佐藤剛夫】

農家に生まれ、幼少期に両親を失った赤水は、農作業の合間をぬって漢詩を読むなど、学問に励んだ。儒学のほか、地理学や天文学を学び、50歳を過ぎて農民ながらも郷土格(武士待遇)に取り立てられた。その後、水戸藩六代藩主・徳川治保の先生役である侍講となり、藩主に農民の苦勞を訴える「農民疾苦」の上書を提出し、農政改革につなげた。1779年には初めて経緯線を使った日本最初の近代的地図「改正日本輿地路程全図」が完成。88歳で亡くなるまでの足跡を100以上の漫画でたどっている。顕彰会会員の日立市の会社員、原康隆を



長久保赤水の生涯を描いた漫画を出版した佐川会長(中央)ら顕彰会のメンバー。日立市役所で

んが漫画制作を担当した。

本はB5判全192ページ。漫画のほか、弟子が赤水の教えをまとめた「赤水先生為学入門抄」「悉学書」の現代語訳や、赤水の生涯を詳しく記した年表も収録している。3000部を発行し、県内の書店で1000円(税別)で販売している。

出版に併せて、顕彰会は漫画の感想文を募集している。住所や年齢、国籍などは問わない。感想文(550字以内)と住所、氏名、生年月日、職業を明記し、〒318-0103 高萩市大能341

長久保赤水顕彰会「長久保赤水の一生」感想文宛てに郵送する。最優秀作品には賞金10万円を贈る。6月30日締め切り。

顕彰会は、今月から赤水の業績などを紹介するホームページ(www.nagakubose-kisui.org)を開設した。佐川会長は江戸時代に儒学者、地理学者、農政学者として数々の業績を残した赤水の情報を国内だけでなく、世界に向けて発信していきたい」と語った。

問い合わせは、顕彰会事務局(090・1846・6849)

# 長久保赤水の功績次世代に

## 絹本着色日吉山王本地仏曼荼羅図



絹本着色日吉山王本地仏曼荼羅図(筑西市教育委員会提供)

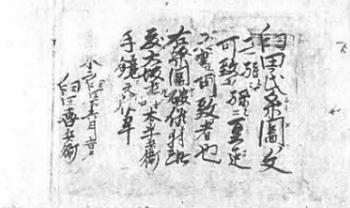
### 古文書「臼田文書」

### 長久保赤水関係資料

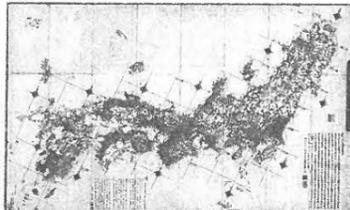
県教育委員会は、県文化財保護条例に基づき、筑西市の千妙寺が所有する絵画「絹本着色日吉山王本地仏曼荼羅図」、稲敷市の個人所有の古文書「臼田文書」、高萩市などが所有する歴史資料「長久保赤水関係資料」の3件を新たに26日付で県有形文化財に指定した。この結果、県指定文化財は計691件となった。

曼荼羅図は、天台宗の総本山がある比叡山の地主神・日吉山王への信仰から生まれたとされ、鎌倉時代後期(14世紀)の制作とみられる。筑西市にある天台宗寺院・千妙寺の寺史展示室に保管されている。同市の指定文化財でもある。曼荼羅を張った社殿の上部に釈迦、阿彌陀など日吉大社の上七社や中七社の本地仏、京都で天台宗を守護する諸神を配置し、下部の回廊や階段には狛犬や猿が描

臼田文書(一部)稲敷市立歴史民俗資料館提供)



改正日本輿地路程全図(高萩市教育委員会提供)



# 県有形文化財新たに3件

かれている。筑西市教委は「千妙寺が格式の高い寺院であることを示す作品。市にとっても貴重な財産」としている。

られて移住し、羽賀城(稲敷市羽賀)を構え、関東地方を代表する領主として活躍した。今回指定されたのは幕府から与えられる領地に関する公文書をはじめ、鎌倉時代前半以降、代々継承してきた領地を子孫に受け継ぐ際の譲り状、家系に関する覚書など。稲敷市立歴史民俗資料館によると、鎌倉時代まで遡る個人所有の古文書が原本で残っているのは珍しく、貴重な文書群だとい。

長久保赤水関係資料は、江戸時代に地図を刊行するなど様々な活躍をした長久保赤水(1717~1801年)の業績を示す資料693点。赤水の出身地・高萩市内で同市などが所有している。

赤水は農家に生まれたが、学問に励み、天文学に関する本や農民の生活に関する文書などを書いた。日本地図の原図改製扶桑分里図を作製。その後、初めて緯線と経線が入った日本地図「改正日本輿地路程全図」を刊行、庶民に普及した。「関係資料」は地図や自筆の文書、手紙など。地図作製過程や知識人との交流などを示し、学術的価値が高いと判断された。

## 長久保赤水資料など3件

## 県指定文化財に追加



「長久保赤水・改製扶桑分里図」(高萩市教委提供)

県教委は26日、県文化財保護審議会の答申に基づき、筑西市墨子の千妙寺所有の絵画「絹本着色日吉山王本地仏曼荼羅図」、稲敷市の個人所有の古文書「臼田文書」、高萩市所有の歴史資料「長久保赤水関係資料」の計3件を新たに県指定文化財に加えたと発表した。県指定文化財は今回の指定を含め計691件となった。

長久保赤水関係資料は、高萩市生まれで農政学者や天文学者、地図、紀行文など多くの業績を残した長久保赤水が手掛けた1760年代ごろ完成の地図「改製扶桑分里図」など関連資料693点。地図の製作過程をはじめ、赤水の業績の解明につながる学術的価値が極めて高い資料群となっている。(朝倉洋)

# 長久保赤水の生涯 漫画に

高萩出身 地理学者 生誕300年で顕彰会発行

江戸時代の地理学者で高萩市出身の長久保赤水（一七二七―一八〇一年）の生涯を漫画で描いた「マンガ 長久保赤水の一生」付 赤水先生為学入門抄・志学警現代語訳」が出版された。赤水の生誕三百年を記念して長久保赤水顕彰会（佐川春久会長）が発行した。佐川会長は「知名度アップにつなげたい」とアピールしている。



長久保赤水の一生を紹介する漫画を発行した佐川会長ら顕彰会のメンバー＝日立市役所で

## 「知名度アップにつなげたい」

（山下葉月）

農民として過ごした幼少期から、さまざまな功績を残し、満八十三歳で亡くなるまでの赤水の人物像を紹介している。赤水は農作業の合間に本を読んで学び、後に水戸藩の侍講（先生）に取り立てられた。日本で初めて経度と緯度が入った日本地図「改正日本輿地路程全図」を出版したのをはじめ、藩主に農業改革も提案している。百々にわたる漫画は、顕彰会メンバーの日立市の会社員が描いた。

赤水が弟子に命じて書かせた学問の指南書「赤水先生為学入門抄」と「志学警」の二冊を現代語に訳して収録した。佐川会長は「赤水を知るための入門書として最適」と話している。

「マンガ 長久保赤水の一生」はB5版、百九十二頁、千円（税抜き）。県内の書店で販売している。

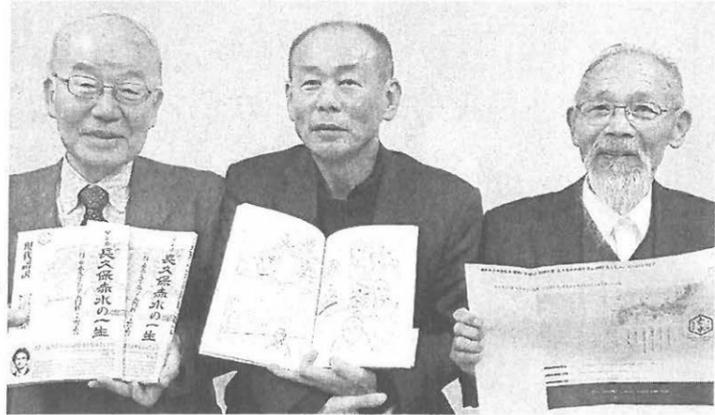
また、顕彰会は漫画の感想文を募集している。原稿用紙に五百五十字以内で感想を書き、住所、氏名、年齢、職業（学校名）を明記して〒318 0103 高萩市大能二四一 長久保赤水顕彰会「マンガ 長久保赤水の一生」感想文係宛てに応募する。締め切りは六月三十日。最優秀作には賞金十万円を贈る。このうち三万円は赤水の生誕三百年記念事業のため寄付してもらう。

問い合わせは同係＝電090（1846）6849＝へ。

# 赤水の生涯 漫画でたどる

## 生誕300年 顕彰会が出版

「資料の国指定重文を目指す」



できあがった長久保赤水の漫画などを手にする佐川春久さん（中央）ら日立市役所

ど関連資料の国指定重要文化財を目指す」と意気込む。

1日付で出版されたのは「マンガ 長久保赤水の一生」。農業の傍ら儒学を学び、52歳で武士待遇の郷士格となり、日本地図の原図「改製扶桑（日本）分里図」を完成させ、61歳で水戸6代藩主、徳川治保の側近の先生である侍講に。伊能忠敬が日本地図を完成させた40年以上前に、経線と緯線を日本で初めて記した「改正日本輿地路程全図」を完成させた。

冊子には、赤水の学問の指針を記した「赤水先生為学入門抄」と「志学警」の現代語訳も添えた。生誕300年を記念し、顕彰会はホームページ（<http://nagakubosekisuui.org>）も立ち上げた。日本地図の原図など約20点を開覧できる。

「改製扶桑（日本）分里図」など916点は高萩

江戸時代中期の儒学者で天文・地理学者でもあった高萩市赤浜出身の長久保赤水（1717～1801）の生涯をたどる漫画ができ

あがった。今年は生誕300年。企画した長久保赤水顕彰会の佐川春久会長（67）は、「多くの人に赤水を知ってもらい、地図の原図な

市の指定文化財になっていく。漫画化を図った佐川会長は「記念の年に、まず県指定文化財となり、東京五輪までに国の文化財に」と先を見据えている。

顕彰会は冊子（千円）別売の感想文も募集している。問い合わせは顕彰会事務局（090・1846・6849）。（服部肇）

### 高萩出身の地理学者・長久保赤水

高萩市出身で江戸時代の地理学者、長久保赤水（1717～1801年）の生涯を描いた漫画が完成し、企画した顕彰会の佐川春久会長らが13日、日立市役所で記者会見した。佐川さんは、「読みやすいマンガになっており、赤水の功績を全国の小中学生たちにも広めたい」としている。



漫画「長久保赤水の一生」を紹介する顕彰会のメンバー＝13日、日立市役所



漫画化された「長久保赤水の一生」（いずれも田中千裕撮影）

# 生涯と功績、漫画で紹介

## 顕彰会「全国の小中学生に広めたい」

漫画「長久保赤水の一生」はB5判全192ページで発売中。農民に生まれた赤水が勉学に励む少年期から20年を費やした日本地図作り、水戸藩主の講師として、水戸藩主の講師としての活躍や全国の学者との交流など、83歳で没するまでを100ページにわたって紹介

をスタート。全国から漫画の読書感想文（懸賞金10万円）を募集し、全国にアピールする。

記者会見した佐川さんは「赤水の生涯を通じた漫画化は初めて。農民から学者となる中で、役人の不正を藩主に直訴するなど、儒学者としての赤水の功績も知ってほしい」と話している。

竹島（島根県隠岐の島町）を最初に記した日本地図の製作者としても知られ、政府は「日本地図」改正日本輿地路程全図（1779年初版、長久保赤水

作製などをもとに「遅くとも17世紀半ばには竹島の領有権を確立した」と主張している。

「長久保赤水の一生」は3千部発行で価格は1千円。問い合わせは顕彰会の佐川さん（☎090・1846・6849）。HPはwww.nagakuboseksui.org

### 高萩出身・近代地理学の祖

# 「赤水」の漫画感想文募集

高萩市出身で近代地理学の祖といわれる長久保赤水（1717～1801年）の功績を研究する長久保赤水顕彰会（佐川春久会長、会員225人）は、赤水誕生300年を記念して、赤水の一生を描いた漫画「長久保赤水の一生」を発行し、懸賞金10万円の感想文を募集する。佐川会長は「業績を幅広い世代に伝える方法として漫画にした。より多くの人に赤水を知ってもらえれば」と期待を寄せる。

## 生誕300年記念、顕彰会発行



生誕300年を記念して発行された長久保赤水の一生を紹介するマンガ本

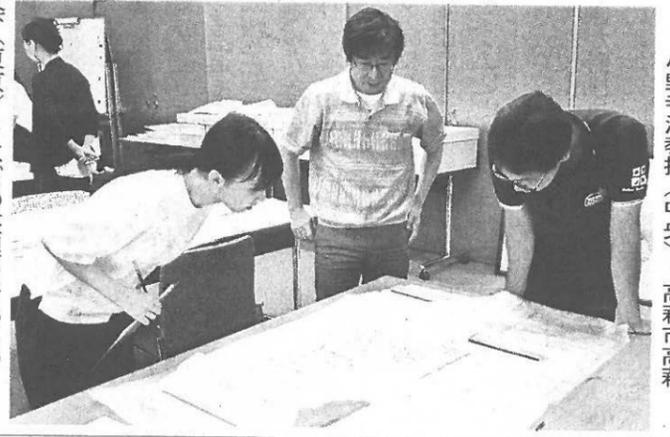


漫画では、幼くして肉親を亡くした赤水が、ひたすら学問を修め、多くの出会いを通して自らの道を切り開いていく生涯を分かりやすく紹介。現代語訳の入門抄は弟子の高橋又二郎が赤水の教えをまとめたもの。志学齋は赤水の学問に対する心構えを記した。漫画を描いたのは日立市在住の会社員、原康隆さんで、これまでに「長久保赤水物語」「青春編」など4編を手掛けている。懸賞金付きの感想文募集は県内外を問わず、多くの人に読んでもらうことが狙い。年齢、職業、国籍、性別などは一切不問で原稿用紙550字以内。締め切りは6月30日、同顕彰会に郵送する。赤水は現在の同市赤浜の農家に生まれ、天文学や地理学を学び、1779（安永

8）年に経緯線を入れた日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させた。61歳で水戸藩6代藩主徳川治保に学問を講じる侍講に抜擢され、江戸小石川の水戸藩邸で80歳まで暮らし、85歳で死去した。B5判192ページ、千円（税別）。県内の各書店で扱う。同顕彰会ホームページ（www.nagakuboseksui.org）で赤水の業績と情報が見られる。感想文の応募先は〒318-0103 高萩市大能341 長久保赤水顕彰会感想文係 佐川春久。問い合わせは同顕彰会事務局（佐川）☎090（1846）6849。（飯田勉）

# 長久保赤水の新資料整理

高萩 茨城大教授ら、中国図など



長久保赤水の資料の整理作業をする小野寺淳教授(中央) 高萩市高萩

日本学術振興会(東京)の科学研究費助成事業基盤研究「長久保赤水の地図製作プロセスに関する研究」で、茨城大教育学部の小野寺淳教授らが7日、高萩市高萩の市歴史民俗資料館で、赤水の子孫宅の蔵の中から新たに見つかった資料

などの整理を行った。

プロジェクトは2014年から3年間の調査。赤水が読んで、疑問点を朱筆した漢籍を調べ、それが地図にどう反映されているかなど、地図作製のプロセスの解明が目的。今回の4日間の現地調査は赤水が作った

中国図の調査が中心という。

調査には小野寺教授や同大の大学院生、学生などが参加。千点にも及ぶ地図などの資料の撮影や、子孫宅から見つかった掛け軸や書簡を保管用の紙に収めるなどの作業を行っている。

高萩市出身で同大教育学部1年の沼田和希さん(19)は調査に初参加。「小学校の授業で学んだ、実際のものに触れるのは貴重な機会。地元の偉人を伝えていきたい」と慎重な手つきで作業を行っていた。

小野寺教授は「国の重要文化財になってもおかしくないものもある。18世紀後半から江戸時代にかけて日本人が一番なじみ深い地図は赤水が作った地図。研究はこれからだが、大きな成果を期待している」と話した。(飯田勉)



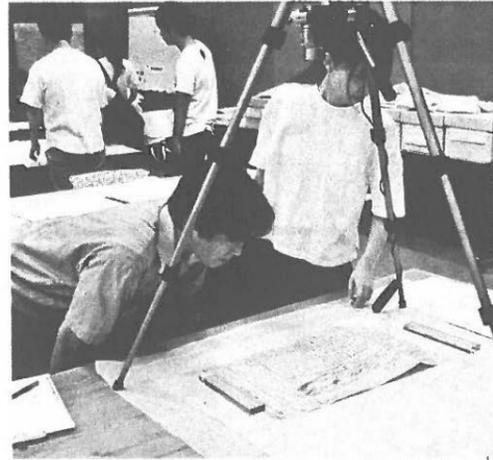
# 長久保赤水 来年生誕300年

## 郷土の偉人 全国に

近代地理学の祖といわれる高萩市出身の長久保赤水(1717~1801年)の生誕から来年で300年になる。伊能忠敬の実測の日本地図より40年以上前に緯線と方角線の入った地図を世に送り出した人物。赤水の功績を伝える活動に取り組む「長久保赤水顕彰会」(佐川春久会長、会員202人)は、行政と連携して記念事業を成功させ、「郷土の偉人」を全国にアピールしていきたい考え。(日立支社・飯田勉)



同市教委によると、赤水の業績は、天文・地理学▽儒学▽農政論の三つの分野で特に大きかったとされる。赤水といえば、赤水図と呼ばれる「改正日本輿地路程全図」で知られる。伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」と比べて情報量が多く、5千~6千の名所



茨城大の小野寺淳教授を中心に長久保赤水の資料整理が進められている。高萩市歴史民俗資料館

長久保赤水 現在の高萩市赤浜の農家に生まれる。9歳で母を、11歳で父を失くし、継母に育てられた。16歳の時、鈴木玄厚の塾に通い、25歳から水戸藩の学者名越南溪などに学んだ。35歳ごろから地図に興味を持ち始め、旅をしながら自らの目で国土の地理について学んだ。江戸時代に長崎に来航したフリーリップ・シーボルト父子の遺品をはじめ、2014年までに海外6カ国で44点の赤水図が確認されている。

### 顕彰会と連携 記念事業でアピール

佐川会長は「生誕300年は大きな節目。市内外にアピールする大きなチャンスだが、顕彰会だけでは力不足。行政の理解と支援が必要」と協力を求めていく考えを示す。

#### ■小惑星に命名

6月になって朗報が届いた。火星と木星の間を横切る軌道で太陽の回りを回る小惑星に、「Nagakubo」と長久保赤水の名が付けられた。命名を提案した天文同好会の川口和彦さんは「子どもは宇宙のことが好きで、命名によって子どもたちに興味を持ってもらえれば」と期待する。

小惑星は直径約10キロで、地球から最も近づく約1億キロ、最遠で約4億5千万キロ

距離。県内からの観測は難しいが、これを逆手に観測できる天文台のある地域との観光ツアーなどの企画も考えられる。

#### ■関係資料900点以上

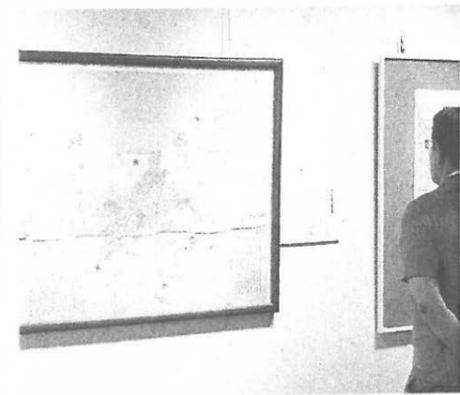
赤水の関係資料は2013年7月までに、書籍や書類、地図など649点が市の有形文化財(歴史資料)に指定。さらに今年4月14日、関係資料267点が追加指定された。茨城大の小野寺淳教授を中心に、日本学術振興会の科学研究費助成事業基盤研究「長久保赤水の地図製作プロセスに関する研究」として、14年から3カ年の調査が行われている。

小野寺教授は「世界の地図史の中で赤水は極めて有名で、国内外の研究者に知られている。一方で県民には意外と知らない人が多い。もう少しPRして茨城が生んだ先人の功績を学んでいかなければならない」と強調する。

顕彰会では生誕300年の記念事業として資料展の開催や赤水の一生を紹介する漫画本の発行、ホームページ(HP)の開設などに取り組む。

佐川会長は「小惑星の命名は県の指定文化財への弾みになるはず。県内の知名度アップ、全国にアピールする上でも生誕300年記念事業を成功させたい」と話す。

顕彰会はもちろん、市や県などの行政などが地元を歴史の宝庫を教育や観光、地域活性化に、どう生かしていくのか注目していきたい。



### 長久保赤水の地図 作製過程に触れる

水戸で企画展

江戸時代の地理・地図学者の長久保赤水が、地図作製の過程で参照した書籍や地図などを展示する企画展が、水戸市文京2丁目の茨城大図書館で開催されている。7月3日まで。

赤水は1717年に現在の高萩市に生まれ、緯線や経線を初めて入れた「改正日本輿地路程全図」などをつくったことで知られる。これまで地図の詳しい作製過程や方法については明らかになっていなかったが、茨城大の小野寺淳教授らの調査により、書物や書簡などが発見された。

今回の企画展では、これらの新史料を含む地図、書簡など計34点を公開している。期間中は無休で平日午前10時～午後4時、土日は午前11時～午後5時。入場無料。

平成 28 年 6 月 11 日 茨城新聞

### いばらき春秋

2016.6.11

ハンガリーの貴族たちが登山中、道に迷った。1人がおもむろに地図を広げて言った。「諸君！地図によると、われわれは今あの山の上にいる！」

▼以前耳にした笑い話だが、地図はかつては為政者の独占物。そんな地図を江戸時代、庶民に普及させたのが現高萩市出身の長久保赤水（1717～1801年）だ。▼赤水は約20年の苦心の末、伊能忠敬に先駆け初の緯線入り日本地図を作成。「水戸の赤水図」は多色刷りで正確と評判を呼び幕末まで版を重ねる全国的なベストセラーになった。▼赤水図は近年再び脚光を浴びる。竹島問題だ。地図には竹島（当時名・松島）がきちんと記載され、竹島が江戸中期には既に日本領と認識されていた事実を物語る。▼ともあれ江戸期の茨城は名高い地理学者の宝庫。間宮海峡発見の間宮林蔵は現つくばみらい市出身。日本初の木版地球儀を考案した沼尻墨徳は現土浦市、北方探検の木村謙次は現常陸太田市だ。現在、国土地理院がつくば市に所在するの何かの因縁か。地図はナビの普及で道に迷っても昔のハンガリー貴族のように広げることが少なくなってきたが、地図作りの苦難に挑んだ先人たちの歩みは今なお迷走時代の道しるべ。来年は赤水生誕300年という。（敏）

### 「長久保赤水」顕彰会の会長

## 佐川 春久さん(67)

高萩市出身で江戸期の地理学者・長久保赤水（一七一七～一八〇一年）の書簡や地図を読み解き、業績を伝え続ける。

赤水は日本で初めて緯線など入りの日本地図「改正日本輿地路程全図」（赤水図）を出版した。伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」完成に先駆けること約四十年。測量ではなく、各地の資料に基づいて作り上げた地図には、北海道を除く日本列島が高い精度で描かれている。そこには竹島も記載されており、外務省が自国の領土と主張する根拠の一つとなっている。

赤水は農民の出だが、学問の功績で武士に取り立てられ、水戸藩主の先生となって農政改革に取り組んだ。「身分制度の厳しい時代に逆境からはい上がったきた努力の人だ」と、その

■ 伊能忠敬より早く日本全図  
来年生誕300年「努力の人」を漫画に



## 偉人の功績を伝える

強い意志に敬服する。平日は市教育委員会の自席で、書簡や地図、漢書の資料を整理し、休日には市内の市立松岡小学校にある郷土資料室「就将館」で案内役として子供たちに分

かりやすく郷土の歴史や偉人たちの功績を伝えている。生まれも育ちも東京都中央区築地。結婚後、妻の出身地の高萩市に移り住み、市役所に勤めた。三十四歳の頃、広報誌を作るため市内で取材を重ねるうち、地元の高萩市から赤水の話

を聞いた。「高萩にこんな立派な人がいたとは」と驚いた。夢中になって赤水について調べると、趣味で調査している人はいるものの、本格的に研究し、その偉業を外に発信しようとしている人はいなかった。「超一級の素材があるのに、誰も調理していないなんて」。もどかしさに、まちづくりの一助になると確

信して普及活動に乗りだした。市教委に異動になったのを機に、散在していた赤水の資料を整理し、広報誌で培ったノウハウを生かし、子供向けに漫画で赤水の偉業を紹介する冊子を製作した。出張のたびに、赤水の資料を求めて博物館や図書館などを訪ね歩いた。茨城大の教授や地元の郷土史家らと資料を読み解き、いかに価値あるものか訴えてきた。

一〇〇五年、市は赤水の資料を初めて文化財に指

さがわ・はるひさ 1949年6月、東京都中央区築地生まれ。結婚を機に高萩市に住み、市役所に38年間勤務する。定年退職後、市歴史民俗資料館長、市立松岡小学校郷土資料室「就将館」館長を務めた。赤水のほか、市に縁のある明治・大正期の植物学者の松村任三、水戸藩家老の中山信吉、高萩地方に城下町を整備した武將の戸沢政盛の「4英傑」の歴史研究にも取り組んでいる。

### いばらき ひと物語

「最終的には国の文化財指定を受けて、冥土の土産にしたいです」。敬愛する赤水に倣い、強い意志で努力を重ね、思いを実現させてつむりだ。（山下葉月）

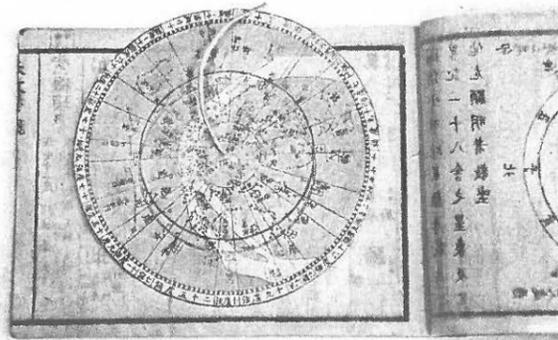
高萩市

長久保赤水資料 267 点追加

文化財に書籍や書簡

高萩市は、同市出身で、江戸時代後期の地理学・儒学・農政学者の長久保赤水（1717～1801年）に関係する資料267点を新たに市の有形文化財（歴史資料）に追加指定した。これに関係資料は計916点となった。

赤水は現在の同市赤浜の農家に生まれ、天文学や地理学を学び、1779（安永8）年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成させた。61歳で水戸藩6代藩主治保の侍講に抜擢され、江戸小石川の水戸藩邸で80歳まで暮らし、85歳で死去した。



追加指定されたのは、個人所有や市歴史民俗資料館所蔵などで、書籍類が173点、書類69点、地図など20点、その他5点の計267点。書籍の「易経」や「春秋経伝」「史記評林」などには赤水が勉学に励んで書き込んだ多くの朱書きが残っている。

新たに市有形文化財に指定された「天象管関鈔」

天文学の入門書「天象管関鈔」は74年（安永3）年刊行で、縦12寸横17寸23分の1。中程の丸くくり抜いたペーシには、季節による日の出や日の入りの方角、星座の動きが分かる星座早見盤が入っている。

追加指定で赤水に関する指定文化財は、漢書などの書籍類が407点、書類337点、地図など146点、その他26点となった。市教育委員会生涯学習課では「2017年が赤水生誕300年に当たることから、それまでに県の指定文化財になれば」と話している。

（飯田勉）

高萩市に生家がある家、円館金さん(55)と江戸時代の地理学者、渡辺和郎さん(61)が長久保赤水(1717-992)年に発見。直径51801年の名が、約10億とみられ、火星小惑星に冠された。高萩と木星の間にある楕円軌道で太陽の周りを4.51年かけて一周している。地球からの距離は最も近い地点で約1億キ、最も遠い地点で約4億5000万キ。この小惑星は北海道在住のアマチュア天文という。

高萩の川口さんら働きかけ



関係資料を手に小惑星「Nagakubo」の命名を喜ぶ(右から)川口さん、富岡さん、佐川さん＝日立市役所で

郷土が生んだ 地理学者・長久保赤水の名を登録

小惑星「Nagakubo」誕生

天文学にも造詣が深かった赤水を調べていた川口さんは、小惑星に名がないことを知った。来年は赤水の生誕300年。「郷土の偉人を子どもたちに知ってもらえる良い機会に」と、小惑星に赤水の名前をつけてもらうよう動き出した。

元日立市気象相談所長で気象予報士の富岡啓行さん(66)の協力を得て昨年8月、命名権を持つ発見者の渡辺さんに要請し、快諾を得た。渡辺さんは「うれし。多くの人が「Nagakubo」を知ってほしい」と語った。

命名は、市指定文化財である赤水関係資料の県文化財への指定に向けて大きな弾みになる」と喜ぶ。命名に尽力した川口さんは「うれし。多くの人が「Nagakubo」を知ってほしい」と語った。

【佐藤則夫】

長久保赤水(ながくぼ・せきすい) 江戸時代中期の地理学、儒学者。1717年、現在の高萩市高浜の農家に生まれる。77年に水戸藩6代藩主・徳川治保(はるもり)の先生役の侍講になる。79年に刊行した「改正日本輿地(よち)路程全図」は経緯線を使った日本最初の近代的地図で、沿岸部を実測した伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の42年前に完成。「赤水図」と称され、実用的な地図として広く一般に普及した。天文学にも造詣が深く、星座早見盤に似た天文学入門書「天象管関鈔(かんきしょう)」を著した。

# 高萩の天文学者 小惑星の名前に

## 江戸中期の長久保赤水

高萩市赤浜出身の江戸時代中期の天文・地理学者、長久保赤水(1717~1801)の名がついた小惑星が誕生した。命名に尽力した地元天文ファンらが1日記者会見し経緯を説明した。来年は赤水生誕300年。地元関係者は「赤水顕彰に弾みをつけたい」と話している。

## 地元ファンが尽力

赤水は、伊能忠敬の地図完成の40年余り前の1779年、経線と緯線を日本で初めて記した「改正日本輿地路程全図」を刊行。現在の星座早見盤につながる「初級星座早見書」も作った。功績を伝えようと、県北地

域で活動する「すばる天文同好会」の川口和彦さん(62)が小惑星への名付けを發案。小惑星に名字が記されている元日立市天気相談所長の富岡啓行さん(73)を通じ、小惑星を800個以上発見している札幌市の渡辺和郎さん(61)に打診。渡辺さんが、まだ名のない小惑星を「Nagakubo」として昨夏申請し、今年4月22日に国際天文学連合が認定した。

「Nagakubo」は直径約10キロで火星と木星の間であり、太陽の周りを約4.5年かけて1周する。1992年に見つかри、共同発見者の渡辺さんが2000年に軌道を実証した。念願を果たした川口さんは「郷土の偉人の子供たちに知ってほしい」と笑顔で語る。長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(66)は「生誕300年へ、赤水関係資料の県文化財指定をめざしたい。小惑星命名は弾みになる」と期待している。(服部肇)



小惑星に長久保赤水の名がついた関係資料を示す(左から)川口和彦さん、富岡啓行さん、佐川春久さん=日立市役所

# 小惑星に長久保赤水の名

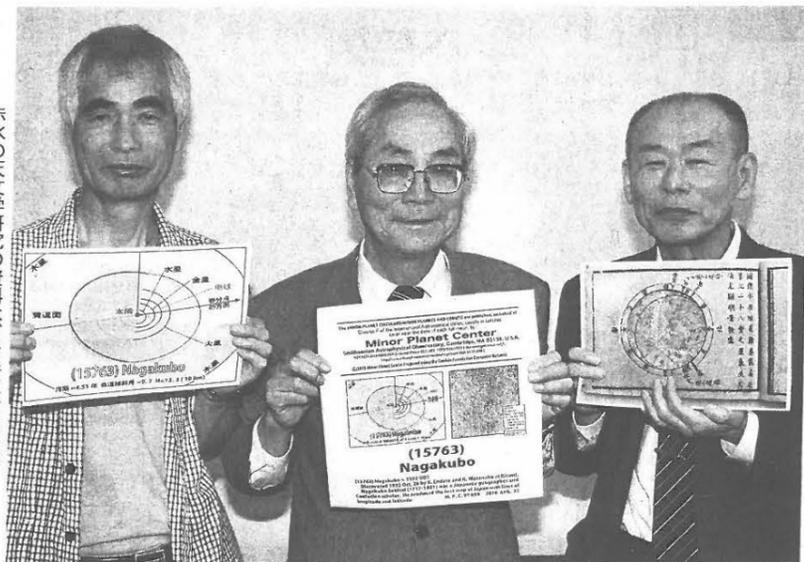
## 高萩出身日本地図の先駆者

江戸時代の地理学者で、高萩出身の長久保赤水(1717~1801年)の名前が、1992年に北海道の天文家によって発見された小惑星に付けられた。来年、生誕300年を迎える偉人の業績を広める一助にと、関係者は期待している。

小惑星「Nagakubo」は直径約10キロ。火星と木星の間であり、やや潰れた楕円軌道で太陽の周りを約4.5年かけて回る。多数の小惑星を発見したことで知られる札幌市の天文家渡辺和郎さんら、92年10月26日に発見した。

命名は、高萩市の天文同好会会員・川口和彦さん(62)が發案した。アマチュア天文家で、元日立市天気相談所長の富岡啓行さん(73)に相談。命名提案権のある渡辺さんを紹介してもらい、昨年8月に国際天文学連合(本部・パリ)に申請し、4月22日付で登録された。

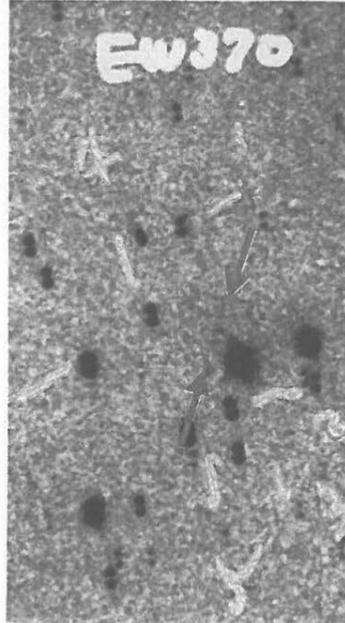
赤水は農家に生まれながら学問に励んで、水戸藩に仕えた。日本で初めて緯線と経線が入った日本地図「改正日本輿地路程全図」を刊行したことで知られる。伊能忠敬の地図より約40年早く、忠敬の地図が幕府の管轄下で世間に出回らなかったのに対し、赤水の地図は江戸時代後半、庶民に普及したという。赤水は天文学も研究し、星座の入門書なども著していた。



赤水の天文学研究の資料などを手に命名を喜ぶ(左から)川口さん、富岡さん、佐川さん

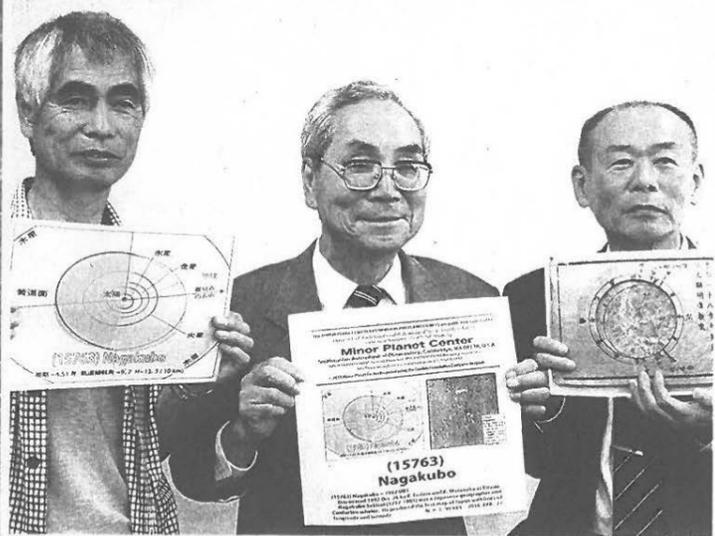
をもっともらうきっかけにしたい」と述べた。顕彰会では来年に向け、業績のPRをしていきたい考え。佐川さんは「命名は、赤水の再評価のチャンスととらえている。天文学を研究していたことも知ってもらいたい」と喜んでいった。

赤い矢印に挟まれた黒点が「長久保」(長時間露光による撮影のため2つに見える) = 渡辺和郎さん提供



### 高萩出身で来年生誕300年 江戸時代の地理学者

## 長久保 赤水



小惑星に郷土の偉人の名前が付いたことを喜ぶ(左から)川口さん、富岡さん、佐川さん=日立市で

# 小惑星に由来の名

札幌市の天文家の渡辺和郎さんが発見した小惑星の一つに、今年四月、高萩市出身で江戸時代の地理学者の長久保赤水に由来する「(15763) Nagakubo (長久保)」の名前が付いた。高萩市の天文愛好家の川口和彦さん(左)が「郷土の偉人の名を宇宙に残したい」と、渡辺さんに熱烈にアプローチした結果、命名が実現した。来年、赤水の生誕三百年を迎える地元では、知名度アップに向け期待が高まっている。(山下葉月)

「長久保」は、太陽系で地球の外側に当たる火星と木星の間の小惑星帯にある。一九九二年に渡辺さんらが発見した。大きさは直径約十キロと推定される。地球から一億〜四億五千万キロ離れており、太陽の周囲を少しづつづれた楕円形の軌道を約四年半かけて一周する。肉眼で見るとはぼやけた、望遠鏡で写真に撮影してやっと分かるほどだ。現在は地球からは見えないが、来年二月中旬の午後七時ごろ、東の空に現れる。発見されてから小惑星には名前がなかった。川口さんは小学生の頃から大の天文好きで、二十五年前には地元の愛好家たちと「すばる天文同好会」をつくった。

## 地元天文愛好家らの尽力で実現

長久保赤水(1777-1801) 高萩市生まれ。農家の出だが、地理学や天文学を学び、水戸藩主徳川治保の侍講(教師)を務めるまでになり、異例の出世を果たした。その後、国内で初めて経度と緯度を入れた地図「改正日本輿地路程(よちろてい)全図」(赤水図)を出版。測量ではなく、各地の資料に基づいて、北海道を除く日本列島が高い精度で描かれている。江戸後期の測量家伊能忠敬の「大日本沿海輿地全図」の完成より約40年早かった。

今年一月、川口さん、富岡さん、長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(左)が、そろって日立市役所で喜びの会見を開いた。席上、川口さんは「うれし」としか言いようがありません」と感無量の表情。「地図だけでなく、宇宙が加わったことで、子供たちが赤水に関心を持ってくれれば」と話した。顕彰会では命名を祝い、今後、関係者を招いて講演会を開いたり、小惑星ピンバッジを作製したりすることも検討している。

十年前、天文学者でもあった赤水に関心を持ち、数々の偉業を知ろううちに、「赤水の名前を宇宙に残したい」と願うようになった。昨年七月、天文仲間と元日立市天気相談所長の富岡啓行さん(左)を通じて、渡辺さんに「小惑星に、ぜひ赤水の名前を」と働き掛けた。自ら、赤水について「天文学に大変、造詣が深く、いくつか天文学の入門書も著している」とメールにつづり、アピールした。この訴えに渡辺さんが応えて、国際天文学連合小惑星センターに命名登録を申請し、四月に承認されて、センターの機関紙に記載された。

# 小惑星に「長久保」の名

## 高萩 赤水顕彰会 命名実現

高萩市出身で近代地理学の祖といわれる長久保赤水(1777-1801年)の名前が小惑星に付けられ、国際天文学連合小惑星センターの機関誌「小惑星回報」に小惑星「(15763) Nagakubo」として登録、掲載された。赤水の顕彰活動を行っている関係者らが1日、発表。来年が赤水生誕300年に当たることから、郷土の偉人の知名度向上や記念事業に弾みがつくと期待を寄せている。

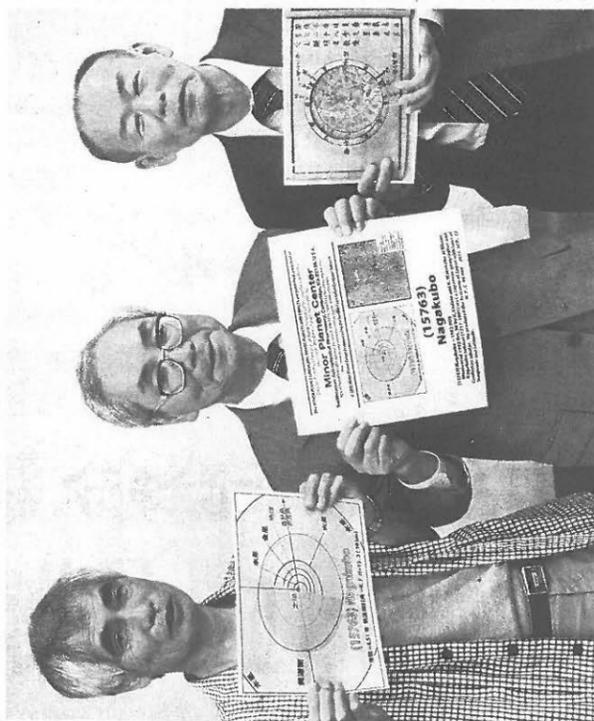
(15763) Nagakubo 小惑星は1992年、札幌市は直径約10キロと推定され、火星と木星の中間を楕円軌道で太陽の周囲をおよそ4.5年で一周する小惑星。地球から最も近づくと約1億キロ、最遠で約4億5千万キロの距離にある。

の川口和彦さん(左) = 高萩市 = が昨年7月、天文学者でもある赤水の名を小惑星に付けたいとの思いから、元日立市天気相談所長の富岡啓行さん(右)を通じて、渡辺和郎さんに依頼。承諾した渡辺さんが申請して命名、4月に機関誌掲載された。名前が登録されたことにより、今後はいつでも小惑星の正確な位置を計算で知ることが可能になるといふ。

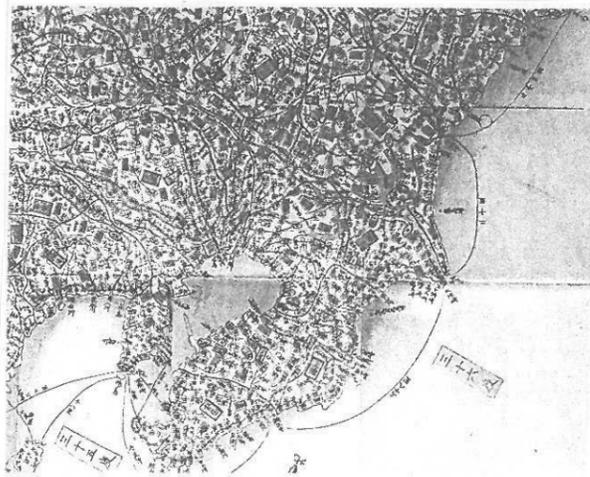
赤水は現在の同市赤浜の農家に生まれ、天文学や地理学を学び、1779(安永8)年に経緯線を記入した日本最初の日本地図「改正日本輿地路程全図」を完成。儒学者としても61歳で水戸藩6代藩主徳川治保の侍講に抜擢された。高萩市では、ゆかりの歴史的人物4人を顕彰する「高萩四英傑」に選んでいる。

同日、日立市で開かれた会見には川口さん、富岡さん、赤水顕彰会の佐川春久会長(左)が出席。命名について川口さんは「地図だけでなく宇宙が加わることで子どもたちが赤水の功績に興味を持ってもらえるのでは」と歓迎した。

顕彰会では新しい小惑星の誕生を祝い、関係者を招いての講演会やピンバッジの製作などを検討している。(飯田勉)



小惑星への「長久保」命名を公表する(左から)川口和彦さん、富岡啓行さん、佐川春久さん=日立市内



来年で生誕300年を迎える長久保赤水(1717-1801)は、多賀郡赤浜村(現・高萩市)生まれの農政家、そして地理学者

### 絵図・地図 ワンダーランド

上

「増訂大日本国郡輿地路程全図」長久保赤水原図(部分)

＝県立歴史館蔵

## 水戸藩に花開いた赤水の偉業

「大日本国郡輿地路程全図」は、緯線・経線が初めて入るなど、科学性を追求した画期的な日本地図です。赤水の死後も改訂・増補を重ね、明治時代の初期まで使われ続けました。赤水は、漢学や天文学など幅広い素養に富み、水戸藩の大事業であった『大日本史』の「地理志」編集にも従事しました。赤水の地理学者としての見識は、学問のさかんな水戸藩という土壌の上に開花したのでした。

「関八州輿地路程全図」は、幕末の水戸藩士酒井喜熙(1805-80)が手がけた関東地方の地図です。主要な街道とほぼすべての村、旧跡や温泉までもが記されています。喜熙は、多くの地図をつくったことで知られていま

す。赤水の編著活動のなかで、水戸藩内には充実した絵図関係資料が蓄積され、喜熙の製図活動を支えていたのです。喜熙は、たくさんの子に恵まれました。その多くが父である喜熙に地理学や製図・測量を学び、官職にあつて地図製作で輝かしい業績をあげました。孫のひとりには、近代日本画の巨匠である横山大観がいます。

県立歴史館の由波俊幸主任研究員が、絵図・地図のつくられた社会的背景を読み解き、その多彩な魅力を紹介します。

テーマ展「絵図・地図ワンダーランド」は、県立歴史館(水戸市緑町2丁目)で5月29日まで。電話029・225・4425。

## 高萩出身 江戸の地理学者・長久保赤水

# 現代語訳で偉業身近に



2冊目となる書簡集の現代語訳を発行した長久保赤水顕彰会の佐川春久会長(高萩市)

高萩市赤浜出身で江戸時代中期の地理学者・長久保赤水(1717-1801)が肉親に出した手紙などを現代語にした本「長久保赤水書簡集」が、現代語訳として発行された。手がけたのは赤水の功績を伝える活動をしている長久保赤水顕彰会(佐川春久会長)。「芻蕘談」は農民出身の赤水による農政改革論であるだけでなく、水戸藩政全般に言及していたことがわかる内容だ。

## 顕彰会が書簡整理 農民の立場から主張

ある佐川さんら会員が手分けして、現代語にする作業に取り組んでいる。1月に発行した書簡集は一昨年11月に発行した書簡集に次ぐ第2弾だ。今回の目玉の「芻蕘談」は赤水57歳のときに書かれた。芻蕘は草と木の意味で、低い身分の者がへりくだって述べるとする農政論だ。当時水戸藩は大幅な赤字に苦しんでいたため、脱却策を細かく列挙。民を救うには良い政治を行うのが一番で他にはありません。とせたいくを禁じ、農業を勧め、民を使役するときには農民の立場から主張。と農民の立場から主張。「借金があるようであれば御身に代に合わないというべきです」として「古くからの弊害を取り除き、今までの格式(前例)を改め、国の政治を定めることはお上御一人のご決断にあります」と藩主の英断を求めている。3人の息子との書簡では父親らしい配慮もみえる。次男が名を帯刀御免となった際は、その際の作法をこまごまと書き送っている。さらに盗難対策として、夜に盗賊が押しかけてきたときは、主人が早く気付けて逃げ隠れることが上策と書いておろく、日ごろから抜け道を心がけておくべきだなどと書いたりしている。一方、第6代藩主・徳川治保の特命で「大日本史地理志」編集に従事することになった際は、「私が命を惜しむのは地理志成就のためだけ。成就しないうちは郷里へ帰ることは一切ない」と決意も伝えている。佐川さんは「書簡集を読んだら、高萩の偉大な先人の生き方を知ってほしい。強い意志が読み取れると思う」と話している。書簡集は千円(税別)。問い合わせ先は顕彰会事務局(0293・28・0405)。(川上真)

# 常陸人

高秋四英傑と呼ばれる地元の偉人について、その業績を伝え続けている。

高秋市下手綱の松岡小学校内にある郷土資料室「就將館」では、一般開放される土日・祝日に案内役を担当。古文書や地図など本格的な資料のほか、子供も親しめるように全員の肖像画や座像、描き下ろしの漫画をそろえるなど、自らのアイデアで展示物に工夫を凝らす。

江戸時代の儒学者で日本地図の先駆者とされる長久保赤水、明治・大正時代に植物学の第一人者として活躍した松村任三、水戸藩附家老で徳川光圀を2代藩主にした中山信吉、高秋地方を治めて城下町

高秋の偉人を発信する郷土史研究家 佐川 春久さん 66



資料を使って高秋四英傑の説明をする佐川さん（高秋市下手綱の就將館で）

## 四英傑の誇り次世代に

を整備した武将・戸沢政盛。地元で名を残した4人を取っ掛かりに、古里の歴史に目を向けてほしいという。

「高秋には自慢できる歴史と文化がある。まちづくりの手段として、それらを掘り起こして次の世代に伝えていきたい」と力強く語る。

生まれも育ちも東京・築地。結婚をきっかけに20歳代前半で高秋市に移り住み、市役所で働き始めた。元々高秋とは縁がなく、郷土史にも関心がなかった。30歳の時、市役所で広報紙作りの担当になったことが転機になった。

取り組んだ。「赤水先生は新しい時代の改革者。当時の人たちがただでなく、今を生きる自分たちにも夢と希望を与えてくれる」と目を輝かせる。

地元の郷土史研究家らと協力しながら、市が発行する四英傑を紹介する冊子や漫画の企画、編集などを手がけた。

「四英傑を通して高秋に誇りを持つ子供たちが増えてくれればうれしい。その手引書となるような本や冊子、漫画をこれからも作っていきたい」と意欲を見せる。

（高松秀明）

取材で街に出て多くの市民や様々な団体との出会いを通じて、郷土史研究家から赤水や任三らの話を聞かされた。「高秋にこんな立派な人たちがいたのか」と驚かされた。

特に感銘を受けたのは、赤水だ。日本で初めて緯度と方角線の入った日本地図を作り、明治までの約100年間、庶民の間で広く愛用された。農民出身ながら学問の功績で武士に取り立てられ、水戸藩主の先生となり、農政改革に

退職後は長久保赤水顕彰会長や高秋郷土史研究会事務局として情報発信に取り組みなど、活動は広がるばかりだ。

松岡小は元々、江戸初期に政盛が居城とし、その後は明治時代まで一時期を除き、信吉の中山氏が領有した松岡城の跡地にある。資料室の名前の基となっている就將館は城内にあった学校で、幕末には任三も学問に励んだ。

高秋の生んだ偉大な先人たちの生き方や思いを感じられる場所を拠点に、現在は2017年に生誕300年を迎える赤水の顕彰事業に力を入れている。年内には2冊目となる書簡集の現代語訳を発行する予定だ。

# 記者手帳

○：「観光パンフレットは古河市の人だけでなく、市外の人たちに配らなければ」と古河市観光協会の野村久男会長(59)。

栃木県や埼玉県の県境に隣接する同市の催しには、JR宇都宮線沿線地域から多くの人が訪れる。だが大きな集客の可能性を秘めた地域にある一方、PRには難しさがつきまとう。野村会長は「絶対に鉄道沿線でのPRが必要」とし、特に旅行ガイド本を刊行する出版社に強く働き掛けたい考え。「春の古河桃まつり」の告知だけでな

## 市外へこそ観光PR必要

く、都内の出版社に定期的に顔を出してPRしていく」(一)

○：「2017年11月6日は長久保赤水の生誕300年に当たる」と長久保赤水顕彰会の佐川春久会長。赤水は江戸時代後期に、書物を読み重ねることで、実測することなく日本地図を製作した地理学者である。地元・高秋市が誇る偉人の一人でもある。

同会は、赤水が息子や恩師らに宛てた漢文の手紙を現代語訳した本を発刊した。赤水の勤勉さや当時の水戸藩政を知る貴重な資料であり、佐川会長は「生誕300年までに何とか、赤水の関係資料を県指定文化財にできたら」と活動した。

「障害が重度になるほど周囲から理解されなかったり、嫌なことを言われたりすることがたくさんある」と、つくば自立生活センターほにゃら代表の川島映利奈さん。つくば市内で今年11日、ドキュメンタリー映画の上映会を開いた。

映画は、人工呼吸器を使いながら1人暮らしするなど、地域で自立した生活を送る人たちを追った作品。「ちゃんとした支援があれば、障害がない人と同じように、日常生活を送れることを多くのの人に知ってもらいたい」と力を込めた。

(有)

### JR常磐線 高萩駅 (高萩市)



駅前に設置されている長久保赤水の銅像(6日)

1926年(大正15年)に建てられた木造の駅舎を出ると、「高萩四英傑」の1人で、江戸時代の地政学者・長久保赤水の銅像が迎えてくれる。1717年、水戸藩赤浜村(現在の高萩市)に生まれ、農業をしながら勉学に励んで藩を代表する学者になった。晩年は武士の身分を与えられ、藩主に学問を教える「侍講」

に登用された。赤水は地理学を研究し、全国から情報を集めて、国内初の緯度と方角線の入った本格的な日本地図を発行した。伊能忠敬の日本地図は非公開だったため、赤水の地図が江戸時代から明治時代にかけて広く用いられたという。銅像は東日本大震災の翌年、2012年11月に市民

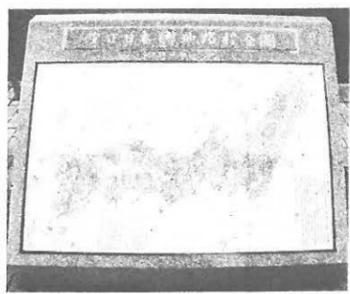
有志の実行委員会が設置した。「赤水の逆境を乗り越えた勇氣と努力に学び、震災を乗り越える復興のシンボルにしよう」と呼びかけ、市民を中心に約300人から約1500万円が寄付された。書見台を前に正座して引き締まった表情を見せる銅像は、台座を含めて高さ約2.5メートル。水戸市の彫刻家、能島征二さんが「藩主に学問を講義している姿」をイメージして制作した。銅像脇には、赤水の手がけた日本地図のミニチュアもあり、駅を訪れる人が地図に目をやり、銅像を見上げて熱心に碑文を読む様子が見られる。

実行委員長を務めた皆川敏夫さん(62)は「困難にくじけずに努力を続けて世の中」

メモ 高萩四英傑は赤水のほか、水戸藩附家老(つけがろう)で松岡(現在の高萩市)領主の中山信吉、明治から大正期に活躍した植物学者の松村任三、江戸時代初期の松岡城主の戸沢政盛の3人。高萩市が、

## いばらき 駅探訪

# 赤水像 復興の象徴に



駅前にある長久保赤水が作成した日本地図のミニチュア

有志の実行委員会が設置した。「赤水の逆境を乗り越えた勇氣と努力に学び、震災を乗り越える復興のシンボルにしよう」と呼びかけ、市民を中心に約300人から約1500万円が寄付された。

書見台を前に正座して引き締まった表情を見せる銅像は、台座を含めて高さ約2.5メートル。水戸市の彫刻家、能島征二さんが「藩主に学問を講義している姿」をイメージして制作した。銅像脇には、赤水の手がけた日本地図のミニチュアもあり、駅を訪れる人が地図に目をやり、銅像を見上げて熱心に碑文を読む様子が見られる。

実行委員長を務めた皆川敏夫さん(62)は「困難にくじけずに努力を続けて世の中」

メモ 高萩四英傑は赤水のほか、水戸藩附家老(つけがろう)で松岡(現在の高萩市)領主の中山信吉、明治から大正期に活躍した植物学者の松村任三、江戸時代初期の松岡城主の戸沢政盛の3人。高萩市が、

(高松秀明)



漢籍を見ながら推測する研究者ら。高萩市高萩

意見を交わした。赤水は現在の高萩市赤浜に生まれ、当時の文献などを考証しながら日本や世界地図を仕上げたとされる。13日は赤水が文字を書き入れたと推測され、2013年7月に市の有形文化財に追加指定された漢籍を公開。全国から集まった歴史地理学や近世史の研究者らは、漢籍と手書きの地図や木版図を比較するなどして考察を重ねた。小野寺教授は本年度から3年間を研究期間に「長久保赤水の地図製作プロセスに関する研究」を進め、赤水の足跡を探っていく。ここ数年で見つかった多くの資料を基に、製作過程を解き明かしていきたい」と今後に意欲を見せている。

# 日本地図の先駆者



長久保赤水の自画像(高萩市提供)

## 伊能図の40年前に作成

地球上の位置を表す緯線、経線の入った地図を日本で初めて完成させたのが、多賀郡赤浜村(現在の高萩市)の長久保赤水(1717~1801)。生誕300年を3年後に控え、改めて業績がクローズアップされている。赤水は安永4年(1775)、59歳で日本地図「改正日本輿地(よみ)路程全図」の原図を完成

させ、4年後に出版した。伊能忠敬が「大日本沿海輿地全図」を完成させた42年前のことだ。

赤水の地図(赤水図)はさまざまな地図や書籍の情報を基に、20年以上にわたる考証のうえ制作した編纂図。10里(約40

## いばらき 遺産

### 人物編

長久保赤水頭彰会の佐川春久会長(65)は「5か国で37枚の赤水の地図が見つかったというなど、世界に通用する仕事をした、すごい人。現在でも竹島の領有権問題に絡み、日本

現代に語られる功績 実測した忠敬の地図ほど正確ではないが、内陸部に5~6000の名所旧跡や城下町、港、海路を載せるなど旅人のための情報を満載。忠敬の地図が明治初年まで国家秘図であったため、赤水図が約100年間にわたりの活用された。

政府が赤水の地図を根拠の一つに自国の領土を主張しているほど」とたたえる。尊皇攘夷運動が激化した幕末、各藩の志士たちが手にしていたのも赤水図。時代を变える道逸材を育てた吉田松陰が、22歳の時に赤水の墓参りをしている。

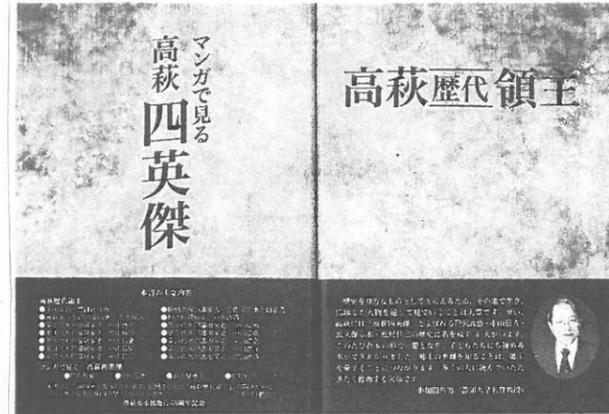


赤水が完成させた改正日本輿地路程全図

# 郷土歴史本の集大成 「四英傑」「歴代領主」を合本

高萩市教委

高萩市教委は市政施行60周年を記念し、これまで出版した「マンガで見る高萩四英傑」と「高萩歴代領主」を合本し、1冊の

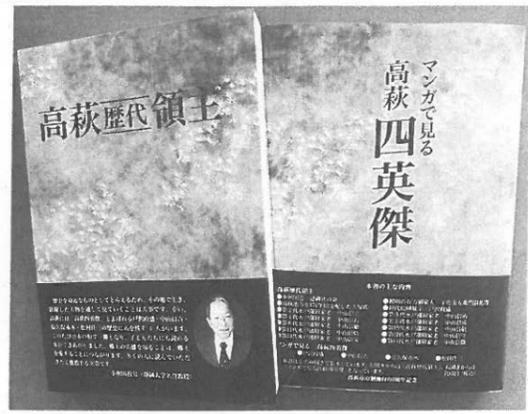


高萩市教委が発刊した「高萩歴代領主」と「マンガで見る高萩四英傑」の合本

書籍として発刊した。左右両開きで装本し、右開きから四英傑、左開きからは歴代領主を「郷土の歴史本の集大成」となりそう。高萩四英傑とは、高萩の城下町の礎を築いた戦国武将で初代松岡城主の戸沢政盛、水戸藩付家老の要職を務めた中山信吉、江戸時代の地理学者・長久保赤水、日本植物学の先駆者として活躍した松村任三。郷土の歴史に大きな足跡を残した4人の業績が、子どもにも分かりやすく漫画で描かれている。高萩歴代領主は、高萩地方を8代にわたって176年間支配した大塚氏をはじめ、戸沢政盛、江戸時代から明治時代初期にかけて高萩地方を代々治めた中山氏など、歴代領主の人物像や功績などを詳しく紹介している。草間吉夫市長は「市制60周年を記念して高萩の歴代領主の功績が全て分かる本を発刊した。多くの市民に手に取ってもらい、郷土の歴史を知ってもらいたい」とコメントした。本書にはNHK大河ドラマ「軍師官兵衛」で時代考証を担当している静岡大の小和田哲男名誉教授が推薦文を寄せている。B6判246頁。定価700円(税込み)。市教委生涯学習課窓口で販売中。問い合わせは同課 ☎0293(23)1132。(小室雅一)

# 高萩の偉人、領主知って

## 市制施行60周年 市教委が紹介本



高萩市制施行60周年を記念し、市教育委員会は、市出身の偉人や領主を知ることができ、本(B6判、246頁)を発売した。3000円(税込み)で販売している。左開きが「高萩歴代領主」、右開きが「マンガで見る高萩四英傑」。草間吉夫市長は「この1冊で、高萩を治めてきた歴代領主の様子と高萩が内外に誇る偉人を知ることができる」とPRしている。同本は、すでに発刊している「高萩歴代領主」「マンガで見る高萩三英傑」「マンガで見る戸沢政盛物語」の3冊を1冊に合本し

平成 26 年 1 月 24 日 毎日新聞

平成 26 年 2 月 23 日 山陰中央新報



長久保赤水が作製した地図の展示を見る茨城県高萩市の草間吉夫市長(右)＝松江市殿町、島根県竹島資料室

## 地図提供者ら 5人に感謝状

「竹島の日」記念式典では、竹島の領有権を確立に向けた島根県などの研究に協力した5人に溝口善兵衛知事が感謝状を贈った。このうち、茨城県高萩市の長久保赤水さん(74)は、祖先の地理学者・長久保赤水が作製した「改正日本輿地略程全図」(1779年初版)の原図を島根県に

提供。竹島が記された最古の日本地図と判明した。式典には、同市の草間吉夫市長(47)らが代理出席。「竹島が帰島することを祈念いたします」と書いた長久保さんの手紙を持参した草間市長は取材に対し「郷土の偉人が重要な地図を作ったことを誇りに思う」と述べた。

このほか、かつての竹島周辺の漁猟について証言した地元・隠岐の島町在住の3人や、竹島を調査した明治の郷土史家・奥原碧雲の孫で、関連資料を島根県に提供した奥原篤子さん(76)＝東京都小金井市在住＝も表彰された。

江戸時代中期に作製された、竹島を最初に記したとみられる日本地図2点が確認されたことが1日、分かった。調査した島根県が特定した。2点は、竹島が書かれた最も古いとされる日本地図「改正日本輿地路程全図」（1779年初版）の約10年前に作られ、同全図の基になったとみられる。文献資料などを基に「遅くとも17世紀半ばには竹島の領有権を確立した」とする日本政府の主張を補強する材料となりそうだ。

この2点は、1760年代に作られた「日本図」と、明和5（1768）年の「改製日本扶桑分里図」。水戸藩の地理学者、長久保赤水（1717-1801年）が手掛けた。改正日本輿地路程全図も長久保の作製で、江戸時代に日本が竹島の領有権を確立していたことを示す証拠の一つとされる。2点は同全図の下図と原図とみられ、長久保が早くから竹島の存在を認識していたことを裏付ける資料となる。

長久保の子孫で、茨城県高萩市の元教員、長久保甫さん（73）が高萩市教委に寄託したものを、島根県の竹

## 日本領示す最古地図 江戸中期の2点、島根県が確認

島根県研究会が調査、作製年代を特定した。2点とも隠岐諸島の北西に、「松島」と表記されている現在の竹島、「竹島」と表記されている鬱陵島の島名が記されている。また、改製日本扶桑分里図には地図上に縦と横の線が引かれていた。隠岐諸島から見た竹島と鬱陵島の位置が北北西から、より正確な北西方向に書き直された跡も残る。

県によると、韓国では竹島を正確に記した同年代の地図は一枚も確認されていないという。県は「長久保が竹島を日本領という認識で日本地図を作製していたことがはっきり確認できた。江戸時代から竹島を含む日本の正確な地図があった」と、日本の主張の正当性を改めて強調している。

竹島問題に詳しい拓殖大国際学部の下條正男教授（日本史）の話「竹島の日本領を示す改正日本輿地路程全図の作製過程を知ることができる資料だ。日本政府の主張を裏付けることにつながり、今回の発見は大変評価できる」



「改製日本扶桑分里図」には、「竹島」「松島」という文字が明確に記載されている。（島根県提供）

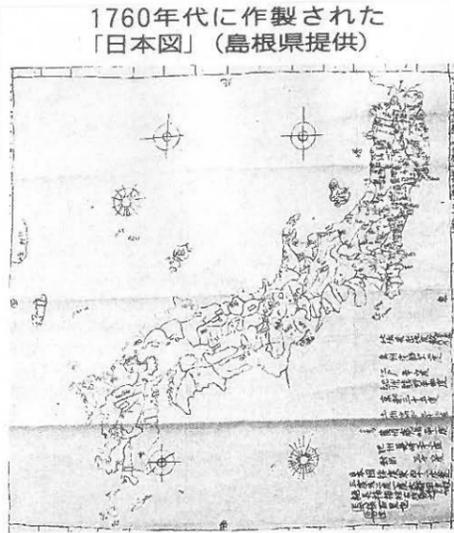
## 竹島記した最古日本地図

島根県の「竹島問題研究会」は5日までに、竹島1771（1801年）が作製された江戸時代（1760年代）の日本地図「改正日本輿地路程全図」（1779年）だ2枚を確認したと明らかにした。竹島を描いた最古の日本地図は、水戸藩の地理学者で高萩市赤浜

出身の長久保赤水（1717-1801年）が作製した「改正日本輿地路程全図」（1779年）だ2枚を確認したと明らかにした。竹島を描いた最古の日本地図は、水戸藩の地理学者で高萩市赤浜

2枚の地図は、高萩市赤浜に住む赤水の直系子孫の一人で元教員の長久保甫さん（73）が保存。2005年に市有形文化財に指定され、07年に市教委へ寄託。竹島問題研究会が今年から作製年代などを調査していた。

赤水は、水戸藩第6代藩主の徳川治保に任せ、縮尺約130万分の1の改正日本輿地路程全図を作製。緯線が1度ごとに引かれ、方眼状に縦線が入った精緻な出来で、赤水死後も1840年代まで多くの日本地図の基本



## 高萩出身 長久保赤水が作製

少なくとも10年さかのぼって、竹島が日本領であることを補強する資料」としている。

2枚は、1760年代は、出雲国（雲州）から隠岐国（隠州）を見るく、横約67センチと、1768年の「改製日本扶桑分里図」（縦約85センチ、横約135センチ）。2枚とも、現在の竹島を「松島」、韓国領の鬱陵島を「竹島」と表記している。

分里図には、鬱陵島の横に「見高麗猶雲州望隠州」と記され、「鬱陵島から朝鮮（高麗）を見るの」と話している。

## 「1760年代」島根で確認

研究会は、赤水が、鬱陵島が朝鮮領だと認識していたら、鬱陵島から朝鮮を見るという表現はしない」と説明しており、「鬱陵島よりも本土側の竹島を日本領だという意識で作製したのでは」と話している。

竹島を記した  
最古の日本地図  
島根県の研究会確認  
島根県の「竹島問題研  
究会」は1日、竹島が記



「改製日本扶桑分里図」の竹島  
が記された部分（島根県提供）

された江戸時代（1760年代）の日本地図2枚を確認したと明らかにした。竹島を描いた最古の日本地図は水戸藩の地理学者、長久保赤水（17

1751801年）作製の「改正日本輿地路程全図」（1779年）だったが、この2枚も赤水が同全図の下図などとして作ったとみられる。研究会は「これまでより少なくとも10年さかのぼって、竹島が日本領で

あることを補強する資料」としている。2枚は、1760年代作製の「日本図」（縦約66センチ、横約67センチ）と、1768年の「改製日本扶桑分里図」（縦約85センチ、横約135センチ）。2枚とも、現在の竹島を「松島」、韓国領・鬱陵島を「竹島」と表記している。

新聞記事に見る長久保赤水

非売品

平成30年9月10日

発行=長久保赤水顕彰会 〒318-0103 茨城県高萩市大能341 佐川春久 電話0293-28-0405

印刷=ふじえだ印刷 〒318-0031 茨城県高萩市春日町1-18 電話0293-22-2103